

集義和書

一



Banzan Kumazawa

Shūgi washo

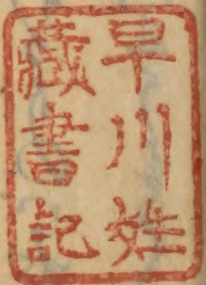
Handwritten Japanese calligraphy in vertical columns, likely the title 'Shūgi Washo' (Book of Arguments) by Banzan Kumazawa.

Shūgi - Washo - Book of Arguments

Vol. I

集義和書卷第一

書簡之一



一 來書略博ツカ子ガクめし人よえ人孝コイ弟忠チカ信シン此道コノミチと教シマら

まは人の中よ不孝不忠フコウフチュウなることいひいふが事コトめしはや

返書略ヘンショ武士ブシの武藝ブゲイよハまマしシある人よ勝カチとハ紙シ知チめし

いとも武功ブコウがハ者モノわりの武藝ブゲイよハまマしシても武功ブコウわらハ人ヒト必カナラ母ハハし

兵法ヘイホウよハ武ブの者モノよハまマしシてもハわりの孝コイ同ドウの道ミチも同ドウ

およハ武ブ知チ仁ニ勇ユウハハ文武ブンブの徳トクがハ礼レイ樂ガクらハ馬ウマ書シヨ教シマハハ文武ブンブ

の藝ゲイがハ生ナマ付ツキ仁ニ厚コウがハ人ヒトハハ武ブの孝コイ行ユク忠チカ節セツがハ人ヒト

かり生ナマ付ツキ勇ユウ強キヤウがハ人ヒトハハ武ブの藝ゲイとハまマしシてもハ勝カチ負マケ式シキ利リもハこト

の事コトがハ武ブの道ミチとハまマしシてもハ道ミチ理リをハけハこトはハ右ミダ

人ヒトハハ其ソノ身ミよハ道ミチとハまマしシてもハ全シユくハぬハもハ文モン才サイよハ差サ用ユウがハ

人の文才拙さしとわり知聰明なる生付た志に行し
やとり行篤実なり志の知よめしうをわあり君みの其
者と死して悔らんやと求むと小人のみのみどりさるをわ
らうしてその養とせわたりととく世よすりゆく徳とな
こ人多し才のく稱とく徳のく好とく！
一 東書略今世よ学同とる人の天下國家を改道かた
つり友よ志多く志よはととせゆく國をく
世終るる人くいせ

返書略の道と学同とる利欲とがうしてはとびる志ら
初別ののうがり實の道と求くその人の志を成せり
わして今世の愚なる人し可い思のい世よ生まると世の
知と開く小ととひて世同よ入人の利をなす故なり世る

古の刃といひはる、徳知し才きこと、終る人のもつと、

博カク有徳ユウトクとして、人情時ニヒ衰ヒよ、事コトと、此才ココロか、と、人の政セイを

か、り、く、く、世間知セカイチあり、く、と、公孫クワンソンら、け、く、人、の、害ガイあり、く、

あ、ま、い、び、く、れ、人、の、え、く、ひ、が、り、今、れ、政、よ、ま、く、く、よ、と、く、あ、

ふ、く、く、と、其、位、よ、悔クワイり、く、人、の、衆シュウの、指ササを、く、く、く、く、く、く、く、

人、情、の、ゆ、く、も、所、の、く、く、人、の、中、ゆ、く、凶、徳クワントクか、く、く、と、え、く、く、

と、み、く、く、く、く、く、く、と、無、き、み、か、り、く、く、も、戦、政、と、せ、ん、と、く、

ま、ま、え、れ、國、政クニセイよ、い、ま、く、く、く、く、く、

一、東、書、略、昭、目、下、拙、不、善、あり、く、く、く、く、く、く、可、く、く、く、

と、い、か、り、く、く、く、く、く、く、内、よ、先、生、と、く、く、肺、肝ハイカンと、御、監、を

ら、く、く、と、見、ゆ、く、

返、書、略、愚、拙、い、く、く、人、の、不、善、と、く、く、く、く、く、く、何、く、く、

返、書、略、愚、拙、い、く、く、人、の、不、善、と、く、く、く、く、く、く、何、く、く、

命イんニ存スいハるル處ニ公ニよシ明德トわリよシりテ肺イ肝カと云んク
あリ候ヨ也ハく強ひハかシりま成シ候ホと云んクはク也ハ惣ト
しテ不善わル人ノ氣キ遣ツカヒくレとクはハ人ノ首コを君
みテ人ノ肺イ肝カと見みハわルと小人と云んク肺イ肝カと
みテくレとくらクしレとハ性セイ善ゼンの理明メイ白ハクなリ事ニ
一葉書略楠正成成に加仁ニ勇ユウわルと云んク人武家ノの世
みテはハ女メの事なリと云んクはハ人武家ノの世
と云んクはハ人誰の事也ハ

逆書略不知レし天子トりある氣質ハとハひ知て我抱トすル
と德とりり正成成の氣質ハよ知仁ニ勇ユウの德也ハ人ト云んクハ
聖イ子ガと云んクはハ人誰の事也ハと云んクはハ人誰の事也ハ
と云んクはハ人誰の事也ハと云んクはハ人誰の事也ハ

天下の王徳と云ふは、
高時奢と云ふは、
天下と云ふは、
天皇道と云ふは、
聖のつりと云ふは、
かゝりて、
高氏にありて、
天下の正と云ふは、
天子の正と云ふは、
理なり是と云ふは、
叔士と云ふは、
世にありて、

多く多く知保へ果の目とさ知交さうあうー仁はせめて内か
 わいさうゆへは見えくくくは勇がよるく之と仁愛みえ
 ー以義後の好交ううとた度くいさめはさあううー奥列
 落の時水の方とふ弁慶さうりて供けうー人の同知と
 うー死あさううりて先弁慶大よ乳父とさくつて具一
 有終くくさうまのーさうーとひく後又乳父とやう
 ちさのひはきさともゆさーさ水の方うり身色くめく水
 一由さへ強倉殿のきのみをれー初めおー一ううと
 殺あくくとはううー不やして行てくまわぶる時先水方を
 一殺ーなり者自害ー終つてさうりおあうーとそ
 ちどの私の後うりておえー水陸道とて落くまう
 一四回刑くめて義経とい見たりとれもさうらとて

さしあめやうるふくわくをいふにさりしは道
をうへて去るなりは一事と以てと并慶仁子の心
見くゆり平生義理の感一也とく涙りつるを
ありきりつるを紙をくひる患難の素しては素
とけよの乳象也義経一代雄儀の場をさるひ
徳人の乳居も節あり并慶仁子て勇るるに
款よとそれなるものをもと難よ遇くとも
とけよあましくはあつたよありし中へ
かり君よとそ地よあつたよありし中へ
吉野河を流すうらう大敵と交るる作と河
雪中よと一竹よひひてものひらありし中へ
うりそあつたよのやうなれを公の知仁勇あり

東鑑のそきううなるるうは世にてり以て強倉中此
るハ委しくあき遠國のういよあそくあり平家物語
義経記も大なる突るうとんくあり文法もそと虚言ハ
もあはりのそと正しく記しる書の中よ定てし記
聖付の人あそくは守て暇日よ考可甲以源頼光小
松の内府重盛島山の重忠文武とあそく士君みの風わ
か人けりうそ人くよ聖孝子の公法とそとせら唐オク
もあそくやよみ人よあそくくは時きけりくあそくし
事不章たる候なり宋明の書周子程子朱子孟子
との註解発明は日本よ後乎人の見ゆゆいりうよあ
六十一年んうりたりとそと市井中よとくま
て士のまこるうそ十年このうと武士の中あそく

あつ人をしく見くはる後世か、好人多知来は、
来書略万物一併とらひ、サウモウ草本コトニウ國去キョウ悉皆キョウ煖併キョウとらひ
同一道理の扱よゆか

返書略万物一併とらひ、
来書略万物一併とらひ、
草本一木とらひ、
悉皆煖併とらひ、
同一道理の扱よゆか、
飛潜動走ののちや、
草本母とらひ、
一雨露のゆくみを得し、
青や、よさう人おとみとらひ、
我らとらひ、
是一併のちりかりとらひ、
人々天地の徳万物
の靈のひしてとらひ、
西ありあは、
梅根を去
中よりこれとらひ、
虚のちり、
一本の本、
天地のちり、
枝の國
のちり、
茶と万物のちり、
花実、
人のちり、
茶も花実

色一平の本より生れとつてを糸よの全神の本は用み一教
 有し朽ぬるるりなり花実をよとてさかんるとつとも
 一平をよの全神と海へ一地を植ゆ道へ又大本とあり
 ぬくれとく万物も同く一虚の一氣よの生れとつて
 とよを虚天地の全体と候るも一形一人をも形とつて
 こそるれを虚の全体あつゆ人よ人の性よの明德は
 号ありぬよ人の小作の天ありて天の全体の人とつて人
 志一身と天地よ各せとく一とありふりみ一呼吸の
 息の運行り命と曆教政術とつてよえとあり天地
 造化の神理丰肺と元亨利貞とつてひ人よ有ては仁義礼智
 とつて故よ本神に仁なり金神に義也大神に礼なり水神に
 知なり天地人と三極とつて形に異なれども神に貫通流

自ら慎獨の功も真の心より出相する心むすことす
 へくゆふし其愚と知し明うる心も位とぬけ
 事と知されし名根行根の伏流平の元情する人
 飯上の愧とをよぶふくむくはもたか上の交用わつゆいりて
 ろうしうしゆをともしわね食くはたうもふる事
 わふしゆふしゆはりんう乳質變化のそまの明白なるは
 ちうしうたうの志るけしゆりうくはし付も人世
 同の心よるしゆりうりあくはらるる道とす
 以ハ一旦のすしひをともやふとひて平の心取あし
 といふ人々と乳質變化し者わくはしゆもいふも
 化わあしゆはしゆの心先光後光たよ平の人うありと相
 るといふ人々の人うしゆはしゆは其國下の心人類も

ましくわつたりつらさるまづ人の介々平人なるも平人あり
よりい王朱のまじ異国よよりして先きみれ徳と不徳
よまわり悉くさうらよいあはれいともあま略しをは
ひよふ人といそく我身の濫と致しはてしなくいしの人
しそ恥ししくいへ古の人へい前よ人の性来多う致以てわ
うしは力あつるんはさり来は人の善不善と見て主善徳
とかと承い

一 再書略宋朝の理子明朝の公術と承い程み朱み々

道統よあつらうらうふとくい

再書略周子れ通書さく誠見ゆもい聖人のくご之あり明

道と類子れ乳象かわり後者い賢者のうくとよふへさゆ

伊川の总量朱みれ志い聖人の一折ありん

が凡そ一門一聖門傳受の心法よありてなりて何とや
我らも其學術と稱する事の多少と其の惑を
解するの次第と法理をいふとせむは難しもの多
く其心術なりと云ふ亦久し経て一統たり故に漢儒の功を
訓詁のあり其後異端ありて世よありひあり故に
宋儒の學の理をよありてひとけくをよありて故に
明朝の海に法ありてありてありてありてありてあり
一 來書略太公望と倣賤よりわきよく三つありてあり
事不審多くは周公召公のいふ中に行乃君のよも見
るべくは軍旅のりよは長しありてありてありてあり
返書略古人のいふとありてありてありてありてあり
の情とありてありてありてありてありてありてあり

しこれ公わりの何とぬくう聖人といふべきや

一 来書略中華の國聖代よ武威にうく末代よ武とよ

りくならしととりていふやうなめくくや

返書略小秋の中夏と侵とととらうとてとて

の聖賢の代よの文明よ武備よの取よとととと

朝より末代を文過く武とととととととと

奢あり士以上のとととととととととととと

驕也いばうりきぬとととととととととととと

の時い氏と女の秋と公やとととととととととと

戦國よのももして士のも是とととととととととと

一 身いともとりてやうううううううううう

もとりとりなり賢君れ代よの文武意備とととと

らととてやうに上臈もやうくくるも下らうとて
もと身無病かりて身足はこうこしく小狄とぞれ
てはとまりぬるもむなり日本も神武帝神武帝より
應神の御代を後うして王者の武威甚つくとお
りしゆりぬるも文とて武ゆくとり京家の人
として武家ののみまらへもぬや武家もとも
強弱入つともまらへり平清盛の武功もよくあり
ともも一國榮耀よとるぬまらへり二十餘年
のやうに武勇よくぬいりて唐の三百年六百年治
りも其間よ文武の業のやうりいへぬとも
風俗よありしむななりともありて聖代の緒
とも鈕と帯とをぬるといふなり

一 來書略 文王と野公ヤシをわらんしとくみなるし又征伐と

ゆらされし方申し公ぬりてくひ

返書略 日辛王代の征夷將軍セイイといふらんうあし 西國セイ爪ツメ

侯コウのほくことと興國コクとをさるるく小扶ホクの中國チクとをさるる

とくしんシの遷ウツリをいじし時トキがうよ周一國イチクの諸侯シコめく

おりしうしと文王と尸シの賜号チキガタなりそのくし西伯セイハクと尸

あり西伯セイハクの紂王チウワウよ忠チウありしとあひひとくあし大

下れ諸侯シコ紂王チウワウ悪アクとめくとしとじくろ人三分ニなり

其二ニ皆西伯セイハクよ志シわりけし時西伯セイハク軍イクサとめくし終りて紂と

やうゆえんときまらぬ法の内ウチなりとるよ西伯セイハクハ紂王チウワウに

其二ニの忠チウなりなりしとく人半ニれそびる諸侯シコとをさるる

く來朝ライチャウし終りて紂王チウワウハ西伯セイハクの公コウとをさるる人の忠チウ

はくともそしむく美里よらし人なりぬを後へ朝
まろ諸侯もよそめして小狄あつくさるひとをうせり
そ時付王初て西伯の功と感^{カニ}しゆりて國よとを
のころしと西國とやうせ狄人^{ニキヒト}とあせうめたり殷^{イニ}
の代乃^{スエ}来よ文武中より中夏^カひみりて周^{チウ}公^{コウ}と征夷將軍と
まつととくまりあきよりて周公^{チウコウ}と征夷將軍と
して征代きりわらうかたりは時を公望^{コウバウ}とあきひ
狄と征とらうとあよ軍法と稱^{ロシ}しひひりてとあえ
くは然とも六韜^{リクタク}の言語^{ゴンゴ}のあきとあきひひりて
来書略^{ライショ}不幸^{ナシ}めして壮年^{サウネン}の時文^{モン}をよみ人年^{ニヤン}己^ニ介
ふすよ及^キいれ家中^{チウヂウ}なる人も困^{コン}人^ニをくへて老^{ラウ}の^{カク}の^{カク}を^{カク}
く^{アシタ}朝^{チウ}の^{チウ}道^{ドウ}とあきとあきよ死^シとらの一^{イツ}語^ゴと稱^{ロシ}しひり

りい

...の...の...の...

返書略家老カヲとる人の道と好し徳と好しトクひ好し人忠功

の玉タマとていぬとひを身よハ洗とやととも人よ道ミチ燕ツバメ

とましくびちハ上カミよまタカ人の役ヤクもいふハ身ミ目メ手テ足ソク乃ハ結ムス

まじとともよろく年トシ目メ手テ足ソクと下シタ都ツくともととも

よはむのやれし人ヒトと家老カヲとらるる人ヒトゆとを

もつひツキ善ヨシげととも老ラウ人の云イハ道ミチある故ユヘも老ラウとをシ作ス

むの字ナリおれ乃ハ理リよとよヨうウのひ好ヨクく幸サイ甚シととくい

一ヒト来キ書シ略リョク先マテ度タクハ仲ナカ下ゲの家老カヲとる者モノと力チカラを無ム終ハシ無ム終ハシ

つととも人ヒトよ道ミチ燕ツバメとらるる人ヒトよヨうウのヒ好ヨクくハ同ドウ

一ヒトとめメ義ギをシ極キョクよハ存ゾンいハ誠マコトよ人のよヨうウのヒ好ヨクくハ同ドウ

多オホ才サイもくクまマ回クワをシろくロクくクと人ヒトの賢チカラとをシ終ハシくク人ヒト忠チウ終ハシと

そして傳へてはるりて凶人となりてはる馬文軍は
その公の道その道の流るるはや今時朱子格
法王学は其心なきをてあはるるは古乃
儒道より其也

返書略その向の事筋の成りつととりともありとも
うう一摠してともうそひくをともう若し人道の言
ゆりよの身の愚なる由をともうとゆりともせぬ見
と立てとうくつとをその人なり物よつとせは一向は
儒のありともひめとも若し拓くは經義とともゆり
其身文武二道は士ともありともありとも文武士
ともその向して物の道理と知れひともよ武道のつと
よくいへ今この武士則ちこれ士君子ともいへ

一 来書略物は是れ仁義と云いしものも法をいふく受用可

在いや

返書略 聖経賢傳道理心ハくいへん誰カくもてて是れ同

一 事はよいかくは理と論一 論と所はこれえりて

心のかれぬをうらやむをよひ心術と受用とらと

人をもん情ホニをん伏フクをんサウうらやむけは是れ功なりてうハ同

くは有徳ユツトクの人を是れ其化カハよらして一人多を来

ものありては徳ハ人のよかきとらよありては一人天理

とあり一人秋と去サレたり一人秋と去く天理と存とら

てまハ善とあらしとて大なるはくは善といふを別は事

とはいふことあるとよありて是人倫日用のなまともとて

より善なりて君子の義理と主と小人の名利と

と心よを我理と主としてゆく。心法を受用する。又
思ふ人亦志とも其人々々の全体が人の位は皆よく
えりし。志は心位を位とぬもさる。の古今は皆くば不
とく得心一経ひく後聖賢を著しと見病ひ人少を
初めれい。皆入徳の功とぬ。心法は六その中庸
論語よりく、多くいへともその心の心れじと換りて俗学
とたり。心法は心法を受用する人も人々計
位をぬくふと強う。一生の訓誥を人終る
りのなり。又心見も大に精く。心法は大方の凡情をぬ
らるもの。心見も心見の成就と云ふ。心法は
心法は心法なり。大方の心法は心法といふ。心法は心法
みらると思ふも真の心法は心法。心法は心法。心法は心法。

とく心とるうかりして小理の情と信しあきまらましく
心とるうとうと欲とあり聰明の人小情小信と欲まわ成
の功をけし入理のよはこましくいへるの徳と流じこしは
とそ此換よん心とるうと油まよ志にやし人を作日イノフの
我まはまらるあへしとまもも學流カウリウよらましく人ふ
まらうりま着キなりく人よあやゆりあくちうまらりな
るまもましく作まゆましくまエチま若人の水ヒとまらまらま
と海あままを甲いよこつ非とらつみまらまらまらまら
一 来書略 武王フウウ太公タイコウ伯夷ハクイ叔齊シュサイの是非ヒと流ヒらまらまらまらまら
くまらまも其精義セイギ我らまらまらまらまらまらまら

返書略 古礼事ハ木存ハ只今武王太公伯夷叔齊ハ忠
いし拙まハ伯夷よまらまらまらまらまらまらまらまら
首陽山シュヨウサンよ入り下流ゲリウも

不^レ以^レ此^レ道^ト明^レ辨^トと^レも聰^明のさ^レり^りめ^めも
く^レの聖^賢よ^レり^りハ^レゆ^レの^レ時^ノ變^トと^レも
を^レ徳^トあ^レる^レを^レ見^レる^レ人^ノ道^ハ堯^舜と^レせ^レ
あ^レや^レる^レ事^ヲあ^レる^レに^レ變^トあ^レる^レ聖^人と^レハ^レ文^王よ
ま^レく^レハ^レ文^王と^レ伯^夷ハ^レ不^レ傷^害な^レる^レと^レ知^レし^つ
く^レの^レ文^王も^レ害^ノの^レ礼^トと^レぬ^レく^レ待^テ終^ルひ^レと^レす^レを
と^レゆ^レり^り

一 來書略^トと^レ儂^者と^レ佛^志と^レ成^トせ^レく^レ備^セる^レと^レ同
度^心を^レ度^心に^レ疑^ハひ^レの^レあ^レる^レ故^ニ邪^心を^レあ^レる^レ故^ニと^レわ^レる^レと^レ存^ハ
返^書略^法海^や儒^道佛^の海^をと^レ氣^力の^レ洗^ハる^レと^レ
う^レ理^のと^レり^りあ^レる^レ勝^トと^レ人^ノの^レ勝^ト負^ト
し^レも^レ道^ノの^レ勝^ト負^トよ^レる^レ聖^人の^レ道^志徳^道よ^レる^レ

ゆさよちとさくハ後後とたことして分明らるること也
孝經カウキヤウよゆりて難るる故よさうの物事ハ天地の間よ人の
あつハ人の腹中フクキウよむのあつらうさう天地百物ハ人よあつて
さういん有形ユウケンのもの人よもさういん其人の道ハ
よ何事ナニコトのあつらうとゆや

一素書略七書の中至賢此論と云ハ作ツクリしゆ多く多く
功利コトバの後ノチ志シ言コトバしといん何事と用ゆらう
返書略仁義のむあり仁義志各ありて後用へくハ大
軍者正兵セイヘイとなく威イとなく敵テキと制セイし小機ハ奇兵キヘイと
用ひらるるに成好て敵となくさい志う進た正と奇と用
かおあり奇も正と成好あり君ハ義ありて敵ハ不義也
吾ハ善ありて敵ハ不善なり善人よ志さう軍士ハ忠日

義士なり不善人よきことよし士卒は皆賊なり悪人のた
めよ善人とともにさあつて謀とぬく敵とわすじま
味方とともについで敵とことともいふ明将の常なり
七書といふも其明将の行ひの法といふものなりと
み軍才氣とせしめしむる者の道といふことともいふ
と、ぬらう軍功とまじらぬ言とあり其軍才の君
みよ、いふ所の道とまじらぬ言とあり天地各別なりと
一乘書略傳といふ所の玉用の事なり、己が明德を
明うよとぬらうとせしめしむる言とあり、むねは
争うて居るも三教一致といふも罪あるやうなり也
返書略一致といふも、そのもの一致と虚言可なり候と
なるは其の一致の事、一端也、因り佛道の中、とて、小

ひいとも各代口の如く不二致しんるる海くくいめ共
ちくめして我ハ我人の人々をゆく如聖賢志御代あり
てハ天下一同よ徳よふれりてはるくい志とともは光乃
時よ許由あり光氏よ嚴子濼あり孔子よ原壤あり
聖人の道とよおれりて天空しと鳥北苑よようせ海廣
しと魚のどしとれよとさうふり

一 来書略 拙者 文章の少くは徳なくとも才徳なくとも儒者

といふこと 何れ 禄と交ひて 恥しと事なりといふ

述書略 今時 儒志といふは 人代中よ考ふ 教の徳

と云ふ 道と思ふ 人の心とくれりて 儒者れ名ハ三皇

大帝 夏商の代やとて 儒者なりとて 周官

よも 子卿里よとて 六藝と教あり 志と儒と云とい

二人の役者なり今此儒と云ふ史は古史なり

博識と云ふ業と云ふ素王曰文勝質史なりと云

是て今此儒と云ふ徳なく道と云ふ行はざるその罪也

わくは聖人の道は徳の人道なり是も天子諸侯郷大夫士

庶人のみ等此人その道なり別は儒と云ふは

道者ありと云ふは同と云ふは教て産業と云ふは人の

久しよわくはよと云ふは士民の所と云

はるは各別のものなりけり是を後と云ふは

相助お教るは義あり人幼少してそのは

教の道なり皆士農工商の業あり乱世久しく戦国

は礼樂文藝よといふは武事よといふは守居て野

人なり成るは是の只郷里よといふは藝文と教へるは

もろしと稱うてく徳とぬく儒とよくれ終へ今の人
久しとあやまると不知して私家道遠をといひあそく
儒ととも一流の道者なりとせりつり大樹諸侯卿大夫
士庶人志み等此人も道とせり儒と二人の應者
なり世人馬の應者と似く武篇といひ武士なる
人なる武篇なる人なりはあやまり漢代より今
とさるんは等の人倫の外よ別よ道者ありと似て異端
とこれ儒と信ふれよ異端なり夫辰周官よ出らじ
一此儒の中心一人志役としたりて異端の徒とま
ぬと終りし事甚くうくい

一東書略松と同役は利発ゆく作法と一者以道より志
なき故何方なりん強合をといひとく乳のくくよ存い

道理と得心とをうけたりといふくは、
道徳と得心とをうけたりといふくは、

と見と可なり

此書略抄をに見及の神意なる故よ、
其處我等を志

の罪とくみくまは又、
此の罪とくみくまは又、

多くありしとて、
此の罪とくみくまは又、

志をえん黙して、
此の罪とくみくまは又、

じをいふとして、
此の罪とくみくまは又、

此の罪とくみくまは、
此の罪とくみくまは又、

慧地ゆくの者、
此の罪とくみくまは又、

己の罪とくみくまは、
此の罪とくみくまは又、

じつととも、
此の罪とくみくまは又、

乃く是罪と見たり、
此の罪とくみくまは又、

と云ふに何の用みも不きしと却てさつりとなら
事なり同志の非とよく見て互に相助くさるるに
御同役の人にも善人の徳に非しと後其の志も亦其の
一不^{フキヤウ}行^{キヤウ}強^{キヤウ}るる人の母のとなりに比し人の作法^{サウ}よくし
てその身よさうしてさび事もあるまじくは不^フ行^{キヤウ}強^{キヤウ}
るる人の他人もさうさうと我身^{ワカミ}の悪^{アク}よさつりぬるべ
しよくしとめくびりのよしと善人の御同役とさうも
とも我身^{ワカミ}の善^{ケン}よさうととも思ひ進はるべきの徳
とほと強^{キヤウ}いふのやうさうさうも利^リ究^クめく世情も心
得^{トク}よくしとされども善人の同志と因^{イン}りて
めしてなされしと同志の人情とさうぬ人より事乃^{サウ}相
強^{キヤウ}くさうくは内とあしくさうめくむむわさうさう

素衣ヒコ育クして生長シキをシび故ニは陽ヨウと云フのみとシてシる日
本々東方ホウなる道ミチとシ小國コクがらシ陽ヨウの穉チなり是故ニ
別ワして陽ヨウといフひシてシんトとシるニてシ有リとシりし
ぬい

一 素書略具グ足ツクのハつせぬへ右ミとシよクしテ山具足シをシり
為シてシ右素ソはシりシへシとシそノおとシ不レ知ルとシりし
返書略一ヒひシ戎衣ヒコして天下テンカ入ルよ定サ然ニと書シヨ終マみ
見ミてシ甲冑カウへ戎衣ヒコの衣服イフクよりシてシ進シり南西ナンセイのハの
衣服イフクをシてシ紳シをシてシ又シ戎ヒコハ兵ヘイがらシ戎衣ヒコはシて
もの服ヒコとシるニ義ニとシいフ人ヒトや兵服ヘイフクの物モノへ戎服ヒコよク
うシてシ戎衣ヒコと名付ナ是ニよクとシてシ戎衣ヒコとシるニと
よクとシるニめニあリとシるニ服ヒコつルもの服ヒコ義ニの中ウチ方カタ

之と袖を紅く染めたるは、
 唐くみや中國の人と甲冑カウキウとて、
 似し戎狄レウテキたり。故に右とく、
 ひく日本れ、くひの袖とて、
 是ハ夫とせえん。くもあきとて、
 を洗炮センパウとて、
 不用イナクの異國イコクの甲冑カウキウよ、
 奉モトりて、
 益ヨキく、
 故に次弟小

集義和書第一終

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

集義和書卷第二

書簡之二

一 來書略式^グ女^ニたる者ハ幸^ニあま^ニし高^ニ名^ニあ^ニく^ニ立^ニ身^ニせ
 じと思ふと似^ニく^ニ夢^ニと^ニあ^ニわ^ニえ^ニし又^ニ幸^ニな^ニら^ニぬ^ニと^ニよ^ニを
 也^ニ此^ニ礼^ニを^ニ稱^ニふ^ニ云^ニ用^ニつ^ニる^ニと^ニや^ニ若^ニし^ニて^ニ武^ニ士^ニの^ニ心^ニは^ニあ
 ら^ニぬ^ニか^ニし^ニい^ニひ^ニく^ニ何^ニれ^ニを^ニり^ニし^ニと^ニ道^ニを^ニ是^ニと^ニし^ニて^ニい^ニふ
 返^ニ書^ニ略^ニり^ニし^ニて^ニ來^ニり^ニし^ニの^ニ文^ニ育^ニあ^ニり^ニて^ニ道^ニを^ニ是^ニと^ニし^ニて^ニい^ニふ
 も^ニな^ニに^ニ武^ニ士^ニハ^ニせ^ニめ^ニく^ニ武^ニ道^ニ一^ニ編^ニ志^ニ心^ニの^ニけ^ニを^ニ弟^ニと^ニし^ニ
 て^ニ只^ニ今^ニも^ニも^ニ幸^ニあ^ニら^ニは^ニく^ニ油^ニの^ニを^ニい^ニふ^ニ名^ニせ^ニん^ニと^ニあ^ニり^ニ
 冬^ニ乃^ニ上^ニと^ニ病^ニ死^ニと^ニる^ニハ^ニ念^ニか^ニれ^ニり^ニふ^ニお^ニも^ニを^ニ所^ニ也
 あり^ニれ^ニく^ニも^ニ浮^ニ氣^ニふ^ニく^ニさ^ニや^ニう^ニに^ニ思^ニふ^ニハ^ニい^ニが^ニし^ニな^ニり^ニ我^ニも
 存^ニせ^ニん^ニと^ニ思^ニふ^ニ人^ニも^ニ又^ニ同^ニ一^ニ心^ニあり^ニ死^ニ生^ニニ^ニよ^ニ一^ニか^ニり

道といふは極よありはれは文武は二藝といふなり
とくりゆく知仁勇は徳なくは二道といふなり
一乗書略奇鞠を武士はさふは頼朝卿の次は
とてあそびにせむは其次の奇と好みくたし
怒して武家の弓馬よとこなりて奇鞠とてあそ
ぶ者ありと中山とてあそびくゆ

返書略奇道は我國の風俗なまはしなりと心付た
は幸しゆくいふことといふへの奇人なありての技
は奇とていふなりはよはしとては学問の道なり
れ道は文武あり文武は徳と藝との本末あり文の徳
は仁なり武の徳は義なり仁義は本末は後弓馬書
教礼樂詩奇はあそびなり弓馬書教礼樂詩奇は

文武の徳を肥くつりぬるあり文武乃道とよくんぬて武を
 みらひひと氏と扱おさ其其体力と以て月花ふを野
 からの奇とをくわそと色いん然も愛とわ好人
 たよくの朝渾れ束のたよく人の奇鞠れ器よわは
 中の至念故なりなるまきまき武道はけは過て亡
 めるを和漢を小あまことあまを武道の罪と
 可やのや中とそとゆめく論ぜはそわよく
 の鞠ハ親王門依おしりまき武士のや又鷹鳥り
 歩ゆをながむめく薬車は清あまをさなふ
 己めをせえん門内よららあまゆで親血替
 二りの好不替散よ鞠介と清あてさなわらひ
 系まらるるそれよくも子向家業つとめあひ上

二

二

子所養生モリシヤの多死ありて志をへしりて志をくくしあそひ

専として本を死にありて事ありて

一 乘書略勇の沉勇モウがうとこと取れさ道と刀をう録

化へうらみるよりささぬく存せし道は人乃武勇も

強弱キヨウジヤクぬばとぬいを沉勇をわんをくく人たさ道は百人

一人ありて大く魁堂ケイドウの及不たうさうすなりぬい

逸書略まことに刀ぬさうとことさ道さうとひうのぬて

見ゆらうりふいじうい今れ格よぬりしをぬく事海

をたならぬよぬく自ジ分の目ありぬいさ刀と目利メ志

恥チめさうたるとや儼ゲンし也我亦をそまよ心付く

見習ミナしを大くあうりぬ録のらてふいよく精神セイシあるが

しくんさしとさうらふさ道中ぬ録りてて精神

く石のおくならや練たるをうめてをなつてはあぶらに
まこといけ言無いおう心此おまきそんてやい又たつこよ
てハ見くくア化もわりあがさし似くどみたるやうにさ
いなく空れ曇つてうらあしく漸れあうこくくあくと
つくとまことひよ化とこつひんてさうわり是はましくま
るされりのあくハ沈勇をも又此けし此あくとさくおと
武士ある若いこれ武勇何るこよあつりりのあつるあくハカ
いこれさうく徳あるりのかり柄鞘あくと金銀糸とひら
さうらやうさうおそめうすま化をてに化めてさうら
てい武ハ文をひくくさうさうと理なきハ勇ハ仁とひてか
さあくと平けハ礼儀画くも仁愛ぬくこくくハカ
指のえもあハ自然の時の用とてとなく力のあるは

ら遊さよあり貴方の勇氣示胸括乃らやと様よい
さやとに洗めく御さし可い後其と勇力にわこるも
乃ハ換多く其甚者と有られんそ乃者と失ひを能
矜進ハ功と考ふしハ古人志格言なり勇とそら
とハハめくとして少くの手柄ありてと不めと
智ハ何事と強うまて越夜あせんとい又と
さと我ハ柄ありて色大身よなりめア記めとヤハ
考又歎多くしてやと死んめくいじり二十年甲冑と
枕と山野と家としてなくも名あるのみとありて
道ハ事功志ある者ありと若さととエグら打あそく
先人と請うまうを武道ハ物語とさういふと人
ら若ハ人のいかりの自柄もれいわうと時より愛敬あ

武篇乃極意の愛敬ありととり行りも極意のいれ
道は道く

一 来書略 性(シヤウ)の吾(ワレ)と勞(ラウ)するなり死(シ)の造物者(サウブツシャ)の吾(ワレ)と安(ヤスユ)らるるなり狂者(キヤウシャ)の親(シネ)の喪(モト)はわらうたふ道理ありとの
うりの死(シ)とありふりむ同(ト)とむと中(シヨウ)とありみて
死(シ)と好(コウ)しむ可(コト)なりや

返書略 勞(ラウ)安(ヤスユ)の義(ギ)二ツはわりと晝(ヒル)夜(ヤ)とひく見(ミ)る
一 夜(ヨ)のひひく安(ヤスユ)く晝(ヒル)のむして勞(ラウ)を志(シ)すことと夜
れやとと極(キョク)すおぼしく晝(ヒル)乃(ナラ)勞(ラウ)とれりひ晝(ヒル)の勞(ラウ)極(キョク)り
ぬせひ夜(ヨ)乃(ナラ)休(ヤスミ)をかりふ死(シ)生(セイ)勞(ラウ)安(ヤスユ)の時(トキ)方(カタ)りあり造物(サウブツ)志
乃(ナラ)むむなり私(シ)意(イ)と立て好(コウ)悪(アク)とてなり狂者(キヤウシャ)の

人の生とびと死とゆくむの途とらむらぬめよ
遇言わらぬなり其見^{ケニ}不^レ天^ノ人陰陽^ノおは出^ルり聖人
りしよりけんなるはわらざるを志^スと申^{ケル}はく
さう故^ニ其見^{ケニ}とわらざる狂者^ノありて忍^ビと
こをれは不^レ知^ルい愚^クなり物あり則^チあり聖人^ノ道
と同伴^{ナリ}なり天地万物の則^チなり何を見^ケ解^ケと志^スと物理
とゆらんや志^スと狂者^ノの心も又みと
一 来書略拙志^ニ在^リ不^レ人相^ヲと忍^ビのあり何とそ^レを^レあは
事^ニめくゆや

返書略^ナありめくは相書^ニ云^フ惡^ク乃^チ禍^ノ之^レ兆^ト善^ク乃^チ福^ノ
之^レ基^トとありは相^ノの極^ニ意^ヲめくは
東書略拙志^ニ在^リ不^レ氣^ノ逸^ル物^ナる志^ニあり知^ル二^百

心は方上ありしう流期よのそみくそ子よのいふやう天
下はまわり持がるそ油^{ヒヤク}改^{カク}をれそ相果^{ハテ}は天下れ武士
と執者^{シヤク}は心なるといふゆゑにあそ相^{サウ}はヤ^ヤちあわり然^{シカ}に吾^ガ子^コは
人の長^{ナガ}ありてそたぬとてそい^イ舞^{マユ}ひのそよんぬ故^コこそ
あそいひつるそ人^{ヒト}とらとらしてそい^イ舞^{マユ}ひのそよんぬ故^コこそ
返書^{ヘンショ}略^{リョク}天下の武士の心あそいひの惣^{ソウ}して天下の父祖^{フソ}よ
りそ受^{ウケ}来^キりてあそいひは先^{マヒ}祖^ソよ及^{およ}ぶと好^{この}てのそよんぬ故^コこそ
れよあそいそ國^{クニ}郡^{グン}も又同一^{ドウイチ}野^ノ拙^{セツ}いとそれおろそ大^{ダイ}樹^{ジュ}の
と代^{ダイ}官^{カン}とらそなり治^シ世^セは好^{この}るそ心^{ココロ}とゆゑそねいそ
るやうにわりのうそに事^{コト}なく万^{マン}方^フ家^カといふそ心^{ココロ}なりゆ食^{シキ}の
士の^シ心^{ココロ}もそ六^{ロク}樂^{ラク}しとあそいよるへうの詩^シ由^ユり耳^{ミミ}と洗^{セン}！
心^{ココロ}もそ先^{マヒ}帝^{テイ}と代^{ダイ}友^ユとらそく山水^{サンスイ}とそその心^{ココロ}は何^{ナニ}の官^{カン}位^イ

よりかへて我は天下とゆうらむは人の代友とせよと
二度^ニばよりとて身とあはひのいなり何^ナの苦勞^ク
あつたまのふも必^ニとて下も取らばなく君子の故^ニ
かゝるの利と禍^ワとも困天下^ニらるを得て持^タてた安也^ニ
衆也^ニなりて持^テた危^キし大累也^ニこれ有^リは是^レが記^スのい
はる天災^{サイ}人^ニ乱^ス及^テて厄^ウまたんことをおぼしめぬ
まことといふはこれ故^ニは先^ニ徳^ヲら受^ケるつとる困天下^ニ
うあくおしひ我^レ欲^クのうあは弊^チのいさ^ニ也^ニ聖^ノ人の大寶^{ホウ}
と位^ニといひく富貴^キなくて一方^ニ民^トとをいひたさくか
事^ヲなりぬと受^ケるこゝろの天下^ニある仁^ニ政^トとけい
下^ニと安^ク静^クありあはむと樂^クしこといふは後^ニめく
義^トになくてとてゆると報^ヲはらふのとうりくして

とつると同しく吾たれまよは夫利欲の人の天威のよ
きよてうかひき統てて臣となりて、カリあまりのイキ勢
ひをたあふたうさ主君とも共ひやくくは是以漢高祖
ハ我頸と福くひくは若と知あううたてさくれは人情と
うりうのえ下れ歸さる和いん力よ及いさる事と得いあ
つとら故めくく

一 東書略節分の夜大豆をとり福の内へ鬼ラニが下といひイシ
のりらとやさて戸にははくなく仕ゆるりいゆとなさ
世俗のあうつと好い然とも俗よあさういひてりや
返書略秋冬の陰キ氣内よ有て事と見ひ陽ヤウ氣外よ
わらぬよ立春の且チニタより陽氣内よ今く事と用ひ陰
氣外よ出るのかしらめたりさきとも餘ヨを甚カニしと

ねよら豆とつりて陽氣と氣を屋のすもくまでし陰
 陽のうらりとと燃よまらるるのたるく鬼の陰あり今宵
 くら卯よあつさり神の陽あり神の福となると今宵
 くら内よ入て百物と生よるなり鰯の衆と養子物よて
 仁更あるに依て邪氣其番よあそるまじく邪氣とつ
 つじとありひつろ本とくつろるる世俗鬼の理とあ
 らてかしくるる鰯のく理おれいさるあふん
 一 来書略今時かま子同さる人いめを屋あつ換よら
 甲の世中およそとなさる事とやふおむよてしと何
 どとあおも理屋あつをくしんて神道も王道もま
 る様よ成作は云の見し戸あつに異学の師のい
 い

逐書略古今異字此悟道者しかん上右の愚史愚婦
ありと古きん民よの狂福の其悟道者よのけ福の
己先地獄極樂とそなる事とつて己さるよする交
さるりそそやしく地獄極樂のなるとりよてしとあり
らるり玄懐氏の民よハなるはまよひか一是とふ
くさと己ゆてそそめくむりれぬよあるとらん
ふひ多んかまのせめくめくはとを其とよ自法出来
くんの地獄よ迷ぬと我の迷とんかまひぬと地獄
のがとと云一事とゆくと何をもかともありそつとえ
ばうれ不あくは儒佛たよ世中には云のんもやるとめ
よては

一 素書略 佛教と内典とよの儒教と外典とよの事ハ心

と内とりの形^{ケイ}と外と^{ゲイ}と中^{チュウ}と約^{ヤク}と色^{シキ}の佛^{ブツ}教^{キョウ}の法^{ホウ}あり儒^{ニョウ}
教^{キョウ}の介^{ケイ}さまの志^シと法^{ホウ}なりと中^{チュウ}と儀^ギありと外^{ゲイ}とわらわく
い又^イ儒^{ニョウ}道^{ドウ}の二^ニ教^{キョウ}あり有^ウ中^{チュウ}也^ヤといふも靈^{レイ}妙^{ミョウ}なり
ふ^ムわらわくされと^{サレ}と決^{ケツ}りさる^サる^ル取^ク傷^{キョウ}あり有^ウ相^{サウ}の二^ニ道^{ドウ}也^ヤ道^{ドウ}と
有^ム相^{サウ}と玉^ム抱^{ボウ}と^コり佛^{ブツ}の中^{チュウ}道^{ドウ}也^ヤ有^ム中^{チュウ}の二^ニ相^{サウ}と^キ機^キなり
て^ト統^{トウ}と^トも畢^ヒ竟^{キョウ}の中^{チュウ}道^{ドウ}也^ヤ相^{サウ}は^キ端^{タン}着^{チャク}すと^トり^リへ^ヘく
返^{ヘン}書^{ショ}略^{リョク}形^{ケイ}又^イありの^ノ皆^ケ吾^ゴら^ラけ^ケし^シ也^ヤ有^ム二^ニあり^リと^ト二^ニあり^リ
ら^ラ中^{チュウ}と^トい^イ夫^フ理^リの^ノ別^{ベツ}名^{メイ}なり有^ム二^ニ對^{タイ}も^モ中^{チュウ}と^トあり^リ
と^ト竟^{キョウ}辭^ジなり^リめて^メ易^イの^ノ法^{ホウ}と^ト發^{ハツ}明^{メイ}志^シは^ハ中^{チュウ}と^ト為^ス付^ケ
給^キり則^{ソク}天^{テン}下^カ國^{クニ}家^カの^ノ平^{ヘイ}治^チ也^ヤ中^{チュウ}外^ゲ二^ニ心^{シン}也^ヤ二^ニ道^{ドウ}天^{テン}
理^リの^ノ我^ガも^モあり^リと^ト未^ミ竟^{キョウ}も^モと^ト申^{マウ}と^ト夫^フ理^リの^ノ我^ガも^モあり^リと^ト
已^イ竟^{キョウ}も^モと^ト和^ワと^ト備^ビ身^{シン}齊^{サイ}家^カ治^チ也^ヤ平^{ヘイ}天^{テン}下^カ已^イ竟^{キョウ}の^ノ和^ワ也^ヤ

則中あり物の天^レに^レ至精と^レて^レ至^レ切^レ至^レ簡^レありと中と
 云^レ別^レ和^レあり佛氏と^レと^レも^レ有^レ云^レと^レ二^レは^レ世^レに^レ及^レ即^レ是^レ
 空^レあり^レあり^レ聖^レ學^レと^レと^レも^レ有^レ云^レ中^レと^レ別^レと^レは^レ形^レと^レ云^レ
 と^レハ^レ天^レ性^レなる^レこと^レと^レ仙^レ氏^レと^レと^レも^レ有^レ云^レの中^レと^レハ^レと^レも^レ有^レ
 仙^レ書^レ云^レ心^レ性^レ不^レ動^レ假^レ立^レ中^レ名^レ亡^レ泯^レ二^レ千^レ假^レ立^レ宜^レ稱^レ雖^レ亡^レ而^レ存^レ
 假^レ立^レ假^レ號^レ道^レ者^レと^レと^レも^レ云^レよ^レか^レら^レう^レ後^レ世^レの^レ奢^レ者^レと^レ
 じめ^レ偽^レと^レひ^レく^レと^レく^レ太^レ古^レ朴^レ素^レ淳^レ厚^レの^レ風^レと^レく^レ人^レと^レか^レを^レ
 へ^レり^レ仙^レ氏^レと^レハ^レ聖^レ學^レの^レ統^レ也^レ語^レも^レ理^レも^レいつ^レく^レより^レ取^レ来^レら^レん
 や^レ傷^レよ^レハ^レ聖^レ學^レの^レ傳^レ来^レ明^レ言^レと^レ失^レひ^レて^レう^レり^レく^レ仙^レ佛^レの^レ
 こ^レり^レと^レく^レ中^レと^レ云^レと^レ多^レく^レ先^レ天^レの^レ圖^レと^レ仙^レ苑^レと^レは^レく^レら^レよ^レて
 侍^レ心^レあり^レく^レは^レ中^レ聖^レ人^レ乃^レ門^レより^レわ^レく^レら^レあ^レと^レと^レく^レさ^レま^レん^レと^レ
 仙^レ仙^レの^レつ^レら^レり^レる^レも^レ皆^レ異^レ端^レの^レ語^レと^レて^レい^レと^レさ^レせ^レぬ^レ彼^レを

聖門の事記おとあつての取用ひひ三代の礼樂も浮屠も
おこまざるおとわりく道よふくつて我^{センシヨク}のく一かり一有

よとり其ひあるしと多一さむん聖子の至言をく
端よあつて儒^{タカ}土^サ直と免ぬとて道德の語下^{セシ}法^{ホウ}を

論一語の似^ナとあせて同異とやう盡^{ツク}る期^キある
と内^{ナイ}典^{テン}外^ゲ典^{テン}の各^{ナニ}に^ニ仙^{セン}者^{シャ}よりりやとと大^{ダイ}実^{ジツ}に^ニ儒^{ニウ}者^{シャ}は

弱^{ヨク}く^ク知^チかり^リ秦^{シン}漢^{カン}よりあつること士^シ君子^{クニ}より人^{ヒト}道^{ダウ}統^{トウ}統^{トウ}徳^{トク}と
失^シひ^ヒく^ク執^{シツ}申^{シン}乃^{ナラバ}心^{シン}法^{ホウ}とあつて道^{ダウ}徳^{トク}を^ヲ分^{ワケ}る^ルこと

故^コに^ニ儒^{ニウ}者^{シャ}の^ノ道^{ダウ}は^ハ如^ニ斯^シか^ニ思^シつ^ツる^ルこと^ニ明^{メイ}の^ノ人^{ヒト}
は^ハち^チり^リく^ク仙^{セン}は^ハ入^ニ仙^{セン}の^ノ道^{ダウ}家^カも^モ後^{ノチ}に^ニ天^{テン}仙^{セン}の^ノ旨^{シメ}と^シ失^シく^ク地^チ仙^{セン}は^ハ
断^{タン}を^ヲり^リ是^{コト}を^ヲ又^{マタ}心^{シン}法^{ホウ}と^シ級^{キツ}を^ヲあ^ハれ^ル仙^{セン}者^{シャ}の^ノ心^{シン}法^{ホウ}と^シて

是^{コト}を^ヲい^ハす^ルは^ハ法^{ホウ}と^シ内^{ナイ}と^シひ^ヒ儒^{ニウ}道^{ダウ}と^シ外^{ガイ}と^シり

返書略 兩信の肉めく心位浅深ありとらととも聖学

しるしみもいれども見解めく心地自然よあつく抱ゆ

といやめつらあへし柳いみじく花いれとを造くは物乃

輕重を將守めりてあつく我あつらうとぞ我ぞよくい合銀

と去石と同じをみるとりよを見解とひく怨つとら

りながら五物自然の心めく見ゆるは我とて金銀い

らんとせ世間の人代家とせとらんと養ふ物さ

いあまをわくしとら志い自人のものり人の使をも力の一物

う人よらわすて力代と成り命と亡はよとらとらに不

便ある事ありえうとら人か付か懐ひ取く我物とら

へし衆木の足とらとらと幸なきとてひらひとく遊里

れあうらへと者よ我をわきとらよとらとらとらとら

あらんとも天性の仁愛なるをこそ明心れ聖とゆさくす
別異カレととりとも其おけお承へ一なり世活の物欲のち
アとゆくゆさき学者の見識とゆくゆさくりの也其
魁至るは近ぶるゆさくゆさくも其徳来れも承ては出さ
孰い徳は正道とかなん事か一道の行りもさるゆさく
びへい一人て

一 末書略陽、亂は我意ある志の軍陣はてよゆさくぬか
鏡は又利害くこと者へ武篇純とこと中強弱は
括あるるゆさくゆさくや
返言略加藤九馬助れの兵へ乱ゆさくゆさく徳士は武篇
は目利あつたゆさく直なる志は武篇ゆさく心ゆへ
才と又越後の景虎のゆさくゆさく武篇ゆさくゆさく

武士の常ツネなり百姓カウは耕作サウと同トウ一ヒト武士ブシの多オホシ平生ヘイセイは他カホウ法ホウ
より義ツミ記キふ一ヒトととひくよよの武ブ篇ヘンはととにニととと
ひく知行チウチウととひくわと人ヒト志カシラ頭カシラととととひく名ナ將シヤウの下ノ
ハハ義ツミ名ナがたのりかたとととと武ブ篇ヘンは武ブ篇ヘンととと者シヤととと一ヒトめ
さるへくは陽ヤウ氣キは我ガ意イあるものとして臆オウ病ビョウから生ナ付ツキよ
ていかに一ヒト中チウ習シユめく何ナニのなく其ソノ力チカラはよとととと
いおひえて此コノ事コトはめくは直チキ力チカラある者モノより一ヒト氣キとととと
この事コト方カタより事コト放ホウ法ホウ惡アク不フ仕シは其ソノ時トキはとととととと
て前マエより待マツ見ミ若ニヤウい又マタ分ブン別ベツあるよとと利害ライガイおほるよと
事コト小コ義ツミ理リと心ココロけさる故ユエは自ジ然ゼンに時トキ義ツミ理リととととと
臆オウ病ビョウとととと陰イン極キョクとと陽ヤウとと生ナ一ヒト陽ヤウ極キョクとと陰インとと生ナ
あは平生ヘイセイ陽ヤウ氣キから志シ陣チン中チュウよとと一ヒト腹ハラ立タテとととと

取も色あらしひ弓矢鉄炮テッポウ此書コトよてううひる陽氣ヨウキの皆け
らも毒と肝ホドの中ナカは多くうへに必勇氣ヒツキのあつかもな
けさのちりひの卵書カガキ我意ガコト出さぬねなをしくあくも同
之中の龍リウといふものへ羽ハなきてまよひやうの陽氣ヨウキ乃
玉極と得る氣キのまきいへとも平生ヘイセイの玉陰タマカゲの水中スイチュウよ
ぬりゆり吾は是コトを以て真実マコトよ武勇ブユウの心ココロをあらへ書
く此書コトとよくはりふい

一 來書キタガシ略リョク倭約ヤクの事コトなる人々モトメ用モチたぐおひともあり
うく奢シヨリのあつと事コトと思ひなうともやむしあえ
とくしてよくふかひりひりへう

返書ヘンシ略リョク倭約ヤクと文モンに書シヨクと書シヨク用ヨウと奢シヨリといふこと
ては倭約ヤクの我身ガミよを欲ヨクあて人ヒトよはとあし各書カクシの感カン

よ欲ぬくもくもふはとこさし忌用キヨウの物ともしめどこ
く之とわきいふは作サうかけしシへ方カタも分ワは奢ヲコリひ多くと
へとく忌用あるやうに見えしと忌用キヨウ取トルと我力
此欲コトのた先マ榮エイ耀ヨウのきめふくク奢ヲコリて用ヨウあらさし進シんんむん
おとほしコトとあらすコトあらすコトあらすコトあらすコトあらすコトあらすコト
ばりス人トの物と捨スてくスさし高タカ人ト志物と取トル價ツバとや
らス人ト畢ヒツ竟キヤウ穿セン踏ツムは月ツキ一イツと理リとあらすコト奢ヲコリひ忌用キヨウある
捨スておしいハ儉ケン約ヤクといハ各カク番バンとハゆハいハ又マタ各カク番バンなる者モノは儉
約ヤク此コノ名ナとくスとあらすコトゆハいハとハ

一 束書略同志トウシ申マウに世セ奉ホウつとてやじり人ヒト心ココロを流リウ注シュはわ
けて然シカるコトはわらぬ志シとハならばハ死シ人ヒトなりナリとハ
らスおしいハとハいハわらぬコトとハ真マコトなるコトとハいハるコト

へくはさきとすくきてよきとにたりてよくやあたらは
てもあふくしや

學書略は人のうう千八百一二十とを思さよわは流さ
けん志キズ疵あり其疵ある故は徳人はめやひ善人の其疵
見ゆとも玉れまはゆして之作とくはと其ともと取んたり
かめく疵といひま流あるといふ世ヨロ舉りてむむ致あると
つむよはふれとも其疵は徳は弊ツブありのなる故は徳人
はきめふもそあふ新く幸出來のかりらひ先より其
疵なけしは小人のあふよとそしらすとそは合く君子
かまひ合く小人のためよいあひさふりまへ其務ツカサを
君子の義トシありて疵はゆは其人はあふさきよは二の道
と知らるる

素書略我亦此國よハ江西ハ遺風とあり志餘多しハ
貴光卿弟子乃内一人ヤハ交ねハ

返書略拙志よハ弟子とカ若ハ一人とナクハ師又成へハ

藝一トシテカ死後トシテハ醫者ノ醫業トカハハ一トシ

乃カトカハ物ノ博學トカハトカハ物トカハトカハ

トシテ一トシトカハ教ハ出家カハ其家門トカハトカハ

トカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

ハ拙志ハ廉學カハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

トカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

トカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

乃心法トカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

トカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハトカハ

ありんそくくね事あり世小忍りおよはさる才力あり氣質
此徳ある人々の志れお呻ぬふいかりてあまひゆひ其人と忍
ら少し心りをもゆる心法とまつひらまじひのめくつりてこ
い高とする志乃丘陵ふらあまき義質故よ少し同じ
てと忍ら多幸れ功又勝つてかたかくひく皆益友
は武士此懸く馬の藝とあしへらまを同りには先
へ学く功志なる人へあまよりあまふ人よあしへらまは武
士に相あまひれりめくはくあしへて師とあまひ恩も
ま決風のぬめ天下のため武士道のまきめなまのま用な
る人よいそるさあしへあてくるまのあまふ人も其恩と感
て忘るるうりあり賢者出家かためくは師弟志
操子まなくいあまらりは師りりよて志の恩をよ

ろしひおあよ乃をなり我木道徳の議論ギョウとあそくあそひ
い心友を又うくれおとし心友なうう故よぬひは貴族とハ
忘るゝるひは金ツタく仲と不存弟子よて色なくハ我木
子同体ツチとさる心希より常ツチハ武士小し奉ふいし若中
故よしと右のおとく人よよあかりを休へし一宰人ラウ
ふてカク学問モシのしし学問志若とひく奉ふよひおされ
たふみおやまりくは似合ニア変武シキ士ハ役儀ヤクギと執子ツシムなる
て其の上よはらるしハ今時歴レキハ武士志奉ふよ
らるるを同前よハ武藝ブゲイのあつたを力ハ嗜タシめくよれつ
乃本公人あそくをよ志の相付てかうり今よかほへあ
みとがしへらるるかうさる事ありしうわよりケイ
然ゼンとちりてあしてハ歴レキハ武士ハあらむハ一向カウハ物法モノホウ

し成るもあがり武藝志と成るもあがり又一道あはれ
心法いふ等の入倫の内と小用あはれ志あはれあがり武
藝志と武士乃役儀の嗜あはれ其嗜あはれ人志内中
勝せしうれ人の自中とならまはれ自中といふて
色功志なる志の器用なる人と志あはれし
来書略道は志あはれ者乃時として飲食男女乃欲
つるしあはれ志の實あはれ故あはれ又道は志あ
て色行儀あはれ志あはれ先生いふ志あはれ
返書略心は志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ
志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ
儀あはれ人志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ
と古婦あはれ志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ志あはれ

おし心は勝一いあらさあしくあき後世に達ふをわたり
懐みおとろくしく乱るをわりは過て異感よなるをわ
り一懸のふたのあつともなるは月夜乃志えし一懸あれ
と園敷の晴くのおとく雲ありとも志のむへ一雲ありと
色彩むへくくすい

一来書略此比爰文あく友は喧嘩はあしとる取へりり
見すくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
故よあんとをようきまを中の人へ定業とも可中作
ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
返書略定遊の事い木ぬの惣して喧嘩いり死武士を
せさるあつんゆ大くこれ儀のきしあとなりたつゆ怒り
れぬ先よとくされく志事と事よゆ志く色い人あつぬ

乃命ノミコトと申す事也と云はれりある人何れもあらずと
と交の難ガタシと見えくへむと云らぬ義理もくもをた刀を
とらめくはむらうをききてと其人のあやまらよわはれは
あてしと誠の命あること可申死す人義理かくて
我あやまらめく作出一なるを室カキ喉ノドよりくは命より
くはくは義ありて死するはれ命めくは是と云く
君子クニノシの嚴カン牆キヤウのりくは多はれは

来書略ライショ糸イト教キョウとてはと述くは位又あさうさうと取は
地チ二光クワウ天下テンカ代名ダイメイ山大川サンタウセン天子テンシこそと糸イト終シマヒひを玉タマの糸イト山
大川オホカハ圓マダラは功コウありし人ヒトと諸侯シヨコウあてと糸イト終シマヒの聖賢セイケンとて
を子孫シソンとめく糸イトし見終ミマシマヒふ大士オホシ庶人シヨジン各オノオノ祀イハヒありと
るよ日本ニッポンもくへ上下ジョウゴ男オトコ女メナシともは天アメ照テウをカク神カミへ

比天の心ハ四^カ主^トと成す^トと云^フり^テみ^テは^シ也^レ礼^ハカ
う^ニね^ハい^ルる^に也^光其^レ也^礼は^也さ^うじ^ひ終^ルる^に公^ハ也^也
と云^フ

返書^カ略^シり^テあ^らじ^くの^レ礼^ハあ^るの^カ外^ハは^シ神^トと^祭ら^ざる^にお
し^ハ利^心と^はい^く神^トと^はい^ひお^くと^は懽^ハし^ム且^カ神^トと^はい^ひ
也^とを^さら^うあ^らじ^くの^レ礼^ハあ^るの^カ外^ハは^シ神^トと^祭ら^ざる^にお
か^らず^の道^理と^あり^し情^欲の^レ親^ハは^はら^ひふ^ふま^すと^いひ^と解^キ
て^んく^レ親^スか^らん^ら至^シ神^ト至^スる^にあ^りし^神志^ハ子^ハ也^也
と^いふ^に則^チ神^志念^ハし^て我^レ精^神外^ハ天^神と^同し^ク
仁^義礼^智ハ^天神^ノ德^也と^いふ^にて^行ハ^常と^いふ^には^は
り^し也^也か^らん^ら其^レ礼^ハと^用く^まる^に也^ハ福^ハあ^らじ^く其^レ乃^ハ
と^いふ^に也^也く^まる^に也^ハ福^ハと^いふ^には^は也^也あり^し日^ハ中^ハ神^ノ國^也

とむし礼儀いささゆるさまは神明を徳威に敬服が
ていすんりあそく礼教をたもて悪とあらず神は諄てい
利欲を亡ひ邪術もたては天道よも叶ひ親よも孝は
ま君よも忠ありあの時不位は異あるなりそま天子は直
よもつやなるといふ云卿侍長のこととありそまより下
次弟れつとさくありて可羨あそく其流るるに達するあり
まして土民なるとい其沖内内乃白砂をぬじあそくとあよせ
さふよ帝堯の教とをかうせ給ひく農工高よりく直
よ可やとよみ相あつて此教とて吾もくまむと諺あり
下めとあそくゆるといささほりあるまは皆直よよりてま
いまとほりと敬むしあり民乃心よあや父母よりのみあそ
くかりひあり日本のを神宮神祇せれとむし神聖

此徳ありのくく天下とひくく子と志はひ下民よらくホ
りしゆたふおく堯舜れしくありし其造風あり後世
乃ち中わうて第葺れ宮殿の残り給ふも同じ理を
はる上神とありせ給ひくく和光同塵乃徳よて帝位
のをも時と違ひぬの風俗よて誰とまのりよた道徳を
比野拙いあをて聖神若徳とあふさもるんりありを神
宮ハも御治世乃とありて万歳乃後まてと生く不息乃
徳明うふありしゆて日月の照臨志給ふありしありて
之又ありひありてと聖作よむひるるおく神化のあ
とをもすくふありし古れ聖王ハ君降とやしてさるこことハ若
かり親しくさおくハ神ありあも聖王乃とありし靈山川の
はよりふりてと道徳ハ觸ふの益すくありしあもさあ

川乃神靈の徳は化すべからず其上行ふと察ると後
あとなり天と天子ありていふ祭はたむけたりと
士庶人も若くはつとをいふありしりおありしを多く
一某書略先夜勸請の宮社と非礼ありとうをいふ
ていへば神道の意はあつていふにねる井をいふ誠敬自
然と立て心新あり社並はあつて孫にる取は傳受わ
つてけ心とあはねる養つていふていふ家ありと孝子國諸君
はと成く天下平あり取と勸請なくて不討義とね
いひつて
返書略あつていふ洛陽よして賀茂名御社一所よして
人の敬とえふありとありしむつてを數くの勸請
かうとて證據とていふを勸請の習ありといひて天

下北倉とさへいへく平法盛流を別殿流とんぞく初の本
ら小截請をくむいさくも義と盡さるくは
とくく西海まぐまうてらさく山く清盛よハ奇特
ありいよへも原廟と作らしてふよとく幸なり者
ぬまさるく原廟と作らるも靈地をえまてく移し
率介よいせさるくは北礼がわくは後ハ靈地とを撰
とんみさるくは多者せハ神と汚し威とわくく教とる
とて大なる不敬小なりぬ佛家とゆくと佛後ハ
塔を佛舍利のある所と知く礼拜の心とせはへさうた
めかりとやゆとむじう山林よある伽藍よぬまの
ふわふととさるわくく今ハ所屋と筑ひ建さるく
新塔なるハ月あまきとむじうぬまくわてく僧法係

此故礼の心と終るとして其の上聖人の教は其親と宗と
親の心と立は親乃神と宗と天神と一体とて此
命とら見えしに至るは聖神あり他は亦一とありは
じりり老ひりり親りらありとありは時子より
ひりりの子足もあはしてかく養ひるは乃家の貧
乏神ありんやかく死なかりたは是を命なりと
を時子既分慎てしは家の福神は父母とてお
しはしつり子まつるは福すは故小福とてしと
さしとてかくおんしは故よしとてかくして妻子は
養ひりしはつりすてとせしはやみ願ひはあり
光親笑くと云用よありすとてんとつりありは
くの好みおくとせり我りとの貧乏神をなるとは福

非と云何とてしあそと子供曰じくしり今よおまそ
多くの願子ガヒと多く難ナシキヤク行として神仏よ行ふりの多
くしる福とゆある志一人をれ親ラカよ孝行よく非の
福とぬまわり君のりくみとゆある者ハ倭漢たよ多く
ゆあるよ目の前よある一ある家内の福神よ福と行
らひしてあるよをなく目めとんてぬ下よいのり親
よ孝行として福とゆとととを害ガわく非仏よ行
よく福とゆあるよとあり其損シ多くは今我福神よい
がとゆよ神のわつ故幸ユキをさうやと願ガ文とやうよきて云
けもしを時老親ラカうらうかつふて侍心あぬをまじらぬ
僻ヒガミもやといり腹ハラ多ゆりれ一家内のものをもつ人能ナお
一乘書略度人の父母よい男女の侍坐ガあつくつうる者を

一
此故子なる者父母のつらき養と取れたる人一人男
女ありは子へ父母のつらきと農事と務め食ひりよ
かりかたすれを遊ばさつらふらふゆかり其の上は
も家禄ならぬ故小用と節し力とほめてて父母と
しあふとゆき孝と心と忠たはちまらふ人のいふこと
ふ縁あまの養ふふといふは及んとすて卑妻あまの
父は終仕の心やすたはて子より父なれば子より
も及んとはせられ位く小道とゆぬまの父母の養ひを
て父母の心安して氣遣もかゝり且祭祀よとてこと
れ一是故よ職分と務ふとゆき孝行とこととを
つらひまあてんをうにたてて不財事とぬれまらり
父母のつらき父母よつらふらふゆきなるいふ

返書略 ハシ 又時ありいつとさやうよりわくくくぬぬ
 くみなりたのちあしん天子の天下と順ジュンはあはれり親志
 あり諸侯シヨコウいも必とよく治さる親乃りあり大史を
 改カクりを任ニシぶく私なきり親のりあり士シの尊ニ徳性道同ドウ
 学カクり親のりあり農ノウの天時とあやむこと地チ理と精セイえて
 立コク穀コクは長サイとふり親ニたりあり工コウの職シヨクと上ジヤウ自らジヤクは法ホウとめ
 商シヤウのく賦サイと通ツウとるが親乃りありを奉ホウりあはれりて
 多タりとつとむ子ハ皆親ニは法ホウとるのりあり時トキとして
 いとぬわくハ父母のわたりは物モノとて叶カひん音オンあり親の
 あり君キミ之身シ行道ドウ皆親ニの之ニ力行リキョウ道ドウあり子コ里リと禮レイとい
 へとも父母フボふとも子コといへ

一 末書略 論語ロングの首章シュウシヤウ文ブン理リあり通ツウとて心シンを心シン

もさざる取あつるかみ

返書略説コゴフ自家ジカの生意キヤウを境界カイの順逆シニギヤクより損益シキヤク

一樂タケレムハ物と春ハルと回マヒと一体イツタイの義ギあり不温レイカラハ毎ツネニハ君徳キミトク

人の不フ知チといふものもあは忠良チュウリョウと不忠フチュウといふから直チキ

不直フチキといひ信シンと不信フシンといひ志シのちあは流罪ルザイ林禁キン獄死ゴクシ

刑ケイ小コおふの逆ギャクを人不知ニヒチの内ウチはあり泰然タイゼンとして人ヒトも尤トモ

めを天テンとを怨ウラフをエニ炎暑エンショをカハク霍乱ラクランとして死シもるるをゴク極ゴク

意カンは吹フク雪ユキはあひあふるるを天道テウダウの陰陽インヤウ人道ニヒトハ順逆ジュンギャク

義ギ一イツあり悦樂エツラクハ順ジュン也人不知ニヒチハ逆ギャクあり人生ニヒトの境カイ極ゴクあり

しよとを順逆ジュンギャクの二ニよは是コノ次ジ小人コジンハ順ジュンはあはるる者モノ了リョウ逆ギャク

ふあはるる者モノ一イツハ春秋シュンシュウと考カウとあはるる冬フユからる人ヒト

とあはるる者モノ一イツ君子クニシハ順ジュンは行ユクてハ物モノとあはるる逆ギャクはあは

春をよのびて秋をよとさゆらぐふと一富
 貴福澤ハ春多れ道あり貧穢患難ハ秋冬の多あり四
 時ハ天の徇福ありて徇福ハ人志陰陽あり屋の南面ハ五
 潔くして冬温あり水面ハ夏熱く冬寒く一人
 の南面ハ我水面とたるを並へせとよめりて世みす
 むりの自然の理なり富貴福澤貧賤憂戚相ともな
 ふ世の中あり誰とらうらみあはせとくともめむ

集義和書第二終

東京の事情

この世の情は...

この世の情は...

この世の情は...

この世の情は...

この世の情は...

この世の情は...

この世の情は...

集義和書卷第三

書簡之三

一 来書略性心氣セイシキいづく見侍ミシハ多と云や

返書略性心氣セイシキの也ナリ也ナリと云ふ一氣キなり理六氣の

徳トク方カタなる也一氣キ屈伸クツシ志シと陰陽インヤウと方カタと陰陽インヤウ八卦ハクバとあり

八卦ハクバ六十四ロクジュウシと方カタなり也ナリと云ふととらけり一理ヒツリ可殊カシユ以ヨリひ

盡ツクと云ふは天地万物の理リ行ユクりせむと理リと云ふと云

と云ふ氣六理キロクリの形カタチ方カタなり動靜トウゼウの志シと陰陽インヤウの時中トキナカなりと吾人の

身ミよと云ふと云ふは流行リウコウせむる也ナリの氣方キカタなりと氣キは靈明レイメイ

たる也と心ココロといふは靈明レイメイの中ナカ心ココロ仁義禮智ニギキウレイチの徳トクあると性

といふは靈明レイメイと云て氣中キナカ別小ベツコあり也ナリと云ふは次ツギ多タと云ふと

徳トク伸ノビ力チカラの也ナリと云ふは一屋中イツナカ方カタなり也ナリと云ふは次ツギ多タと云ふと

照せし明のふりく照とて百は條理あり

一 来し書照力死して後世心いりたりし也

逆し書照冬にむくハ夏カクセラの惟子とたりし心なり夏に

むてハ冬イフクの衣服と只し心をいせ形ありてはハ形の心

ありし書照死して来しハ心の形れ心あり

一 来し書照志りて顔ガンシ子れ死後を盗取タクセキの死後を因り

きり

返書照冰性け形と生して形のためよ生せられ

又形の死とるり為よ死せし後悪人の心母は今より世

て性理と志りし後死後と成りし後君子の心ハ今より

志りし後色エキは役せられしと死生と成りし二よせと又死後

成りし後

一 来書略世間より人方不じまんにいひし言をた現れしと信
とて人いひて

一 来書略りまきへいれおとと現といふ言のうそは定見
かり故よ本のキキ和と解く考カン字と心術より理成
かりとてさ色ありぬくくりひたせもはむと現るうそで
信しゆ也君子色よ現おとす現よていふとて色性命
になつてとて若と好いかりかり抱は是よ似するれ也
たもして大よ戒イニヤらまとい

一 来書略り思見法存ぞ好いおとくサホウ物法サホウとて色と慈シ悲ヒ
色しとて色よ孫木と縁へ仕合ありと色いといひ成故に
ておれなるくといや

一 来書略人見てよりうまれを天に見おととて人より人

禱福を我し平生の念忌に違速くしてこそなれ
かり先祖の造化鬼神工を助め其勢いひつるを
さちよの子孫あをまこと色は命なり先祖の造化
サニタケ 浅ゆ多れの子孫あをまこと色其逆命の勢いひま
たさをもしにウチエ 少身頭痛の病あれ人の玉用トヨウ 八智ハチチ 氣キと
感カンと流リウのおとくあまより下流ゲリウこそぬくのあつらひ
としてあつらるる

旧交よわじし書よ曰故者よ其故た然とと不矣フヤト
とり久キウく音問オンモンを絶ツツれぬるの無情ムジョウは似たり傳因デンイン
まを道徳ドウトクの勤ツツメよすまは子よとたといひて愚グと
とも子よつ思オモを見たしてたとおとより子よつた字
浅益センエキなりして道徳を好む者まて浅志センシりりなをねり

是れよ及て後り一息と不肯ありてたすよま
さうり強づくあやまらたか止故者け至情と思ひ強づく何
れ多う過越さうり強づくもさうりてきさうりま
いさうりすうり道德と尊信と強ふるまよりの中れと
まよりて心を一何れ人よさうりて道の信不信あらん聖
人の心あれまよりて天下の聖学とまよりて人よれ聖人
不正なりとき昔聖学よまよりてさうりひたすれを
まよりて已り定見いさうりてさうりて人よさうりて信と
まよりて信とまよりて強とまよりて道とみれの人よあらん
一 東書略略世よ判官具以員とりけいけいけいけいけいけい
返書略略表子に三れめくさうり其功よかさうり者よ
く強とおほさうり者とめくさうり富貴いさうりて驕れ者よ

多しよ上よ是て下とめくまさし者とめくじ判官義直
 と其くう道と志くは勇氣ユウキ氣キよりうして失ありとと
 とそ大功ありて羨ウラヤムとて人情のありまじしなり
 頼朝ヨシトモ福分フクブンありて天トととれととそ不仁あり
 寛者クワンシャの心あり人情のありまじし頼朝判官よかざる
 たりは驕ウラヤムハ天道ハ天カク地チの七次ホロホハ人道のありまじし
 かり謙ケンハ天道のまじし地チの使者たりとてさ
 一素書略我おれ在はよ地チと神の使者たりとてさ
 とそあはせははるく亂れとたなるの衆に其上カミ害
 色あはれはま其通トウよとらひいんやゆりいん
 台別定トウベツテイとてい
 逆書略神慮シヨリョよとらひて此法を改めくはく神を

積りたるに時にあらずして何よかりと色のつらうはつと
給ひの地と使者と定(ま)よあつは且地ハ叢(クサミ)りすじ
ものなきハ人居よ海一ツ路ハ水道よてハ神明ハ祀るを
戒給よるくハ地のもむ深草(シロクサ)に用心をなく行て害に
あハ人の祀たり人のすじるをよあつりよ地のもむハ地の
罪よてくハ叢(クサミ)最よありやつと行と路とハ歩と路とて
可也なと色愚民(クダモノ)疑(ウタガハシ)ひあつハ湯くどととりて神慮
と湯ううくハ有くくハ新訟(シンソウ)ハは方よ道理おまハ交交
色リ色のよてハるを一二交よて湯同心ななくハ
神の湯同心を成すて交交を湯くどととりてうの
かつ取をくハかあつハ湯同心有くハ其ハかハ
たくハの神慮よ叶ハるをと神慮とて人のさ

よとゆく禽獸よの如く様ならずの多き

一 来言暗無字行政如無燈夜行としり忘る政事貴老

學者は政を心得るこの路ひ又其面目あ致ん

其偏りあ致んありと取ると心得るこい

逆言略政の才あ致んとは才と申し其人よ事あま

國天下平治位の本才あつて是事なきをいふは

無事とあり失たなく事なく行つたよくしては

あつとも所をいふたなら故ありきいふはれは

右と見ひもして自由のこころをいふは

知なく事なく事あ致んの政をすは盲者コウシヤの意あり

くり出くまては固執すにありきと事不分明

の特不位の至若ともる事格なくは不自由

一して...
ハ...
知われ大おの...
逢て勝...
大將と敵...
軍法と知...
成...
明白...
一

一 東書略経書

よいく...
にいつ...
返書...
直...
道...

知徳よ入ると成りて今其時聖賢忠厚なりといふ中人
 ように下の人の書とすまふひいして道を知りて成るこ
 いとすまふとせしむ心傳と得たる人は固らざる人とい
 成りていふ教るよ此とすまふと人の心はよはわらざる
 よてい聖人の言語よあくるむ多きい無極の体なり
 其合むおら言外よいして我と絶書とて聖人の心
 とくまふい則聖人は對しなりわらざるなりなりとい
 其心よハ深きあり浅きあり其品いひけりわらざる
 いとすまふいよまふ書と見ざる人を後中してさきまにわ
 こたらしなくいよめよお語して心術の固らざる人ハ具
 すくしよとせ言外の理と不知いして心あり次第法
 物てためむるものよてい中人以上の人をわらざり心傳

彼國てはやうて天地を所とて造化よとて學よ不
 然ハ書よ及及くこととたを行ひ徳よ入いなりと中人學
 めててさ書よとらふたさるるよりそ心傳と不與人の聖
 多に入のくとい上知ハ心傳と不與人て書よとてしを
 多よ徳と知いなり故よ彼好徳ハ幸福あり人ハ徳
 と感く徳と知さ出たれを此人の書いよりそ聖人
 對面仕ハ書よとらふ給ててさ人の主人うてハ仁君
 といふまじ人の居りてハ志長とよみそい流きには
 士とかりて善人れよ入いほとのさハなりとく
 必むと名と後世よあくハ
 一 來書ヨ 三皇立帝三王周公孔子ハ同一也聖人の義
 以伏羲ハ文字を教學さなるを時よあ給ひて初て

登^{クワク}と孔子一 天下後世道學其淵源をせしむるに孔子の功あり
其の孔子ハ末代は迄あらずともその功ひあらず^{ヲレカハ}
此の交り終りて朝夕の功ともあらずしていづれ^ニ易
其の得たりといひ終りて神農ハ草根^{カラネ}をなめて初く
醫^{イヤク}業とせしむるに終りて孔子ハ末代醫術^{イシユク}あり
と^ハいふは生を強くとも業は遠せざるの語ありゆくの
ありて夫よりうひたる位を同一といふなりゆきの也
逆書略時よてい孔子を伏羲神農の時よていハ
易と傳り醫とてく^ハ終りて伏羲神農を孔子の
時よてい^ハ又孔子は^ハてく^ハよてい
一 年書略志^ハ佛^{ブツ}説^{セツ}は^ハた^ハ教^{キョウ}不^フは^ハ且^ナと^ハま^ハり^ハて^ハ
神通方便をた^ハり^ハて^ハく^ハは^ハ空^{クウ}と^ハて^ハは^ハた^ハり^ハ

ふとたよ作しとくしる人の又改めきつて
人といふべき也

返書略ありき心なくい三皇れ時よとして
とて改めとくしる心ありい心ある感あり道理の
孔子の付よハ逆ありととて改めたるの心れ理は
上世ハ大之座と祀と一天地と父母とするはと近一聖
人せよとく其名残ら改めたりたもよとく明者あり
不孝子ありと改めたり孝子と改めたり不孝たりと改め
忠臣志士改めたり刑なく志して大道行くと改め
て人といふ善なりと改めたりと改めたりと改めたりと
生れぬ人初て改めたりと改めたりと改めたりと改め
不孝たりとして感慨あり教たり改めたりと改めたりと
改めたりと改めたりと改めたりと改めたりと改めたりと

天道龍馬と命とく文と以て其志と助を以てり書
敬孝子れくくめならし伏羲氏以前ハ物欲とさくは情
性ハ命と欲故ハ人子病疾あり後世有欲多事の
ことさくあつてされく病入ありと醫薬の術耕作
志政がはさくあつては天道靈草義禮と降して
神農氏の業と助を以てり是皆神聖廣大の
緒餘なり時よりして教とるの伏羲神農ハ
れとく周公孔子ハ夏の一其模様ハかりあり
と色同一々天理の神化ナリ然るに易ハ無極
乃理ナシハ孔子のいさくは伏羲とて是
のいさくは孔子のいさくは伏羲とて是
東書略叙ハスハ聖人の是し時よりして

とこれ法なり

返書略神聖中行のた理よあはるは中國よ来あはる
孔子よさあひはるく聖人とたなりあはるは分量あはるは仁心
廣く厚きを以あはるは志勇色氣質よ優りて是
多し其生國はとくまきて愚癡よ大よ欲あはるは
不仁なるは極弊の國なり死せし肉よ是りて
いをあはる持ありを切てはるは仁心源なる者
是と制とてはるは教生戒よあはるは
りあはるは日本ハ仁國なりは國よ生きたるは佛法
とてはるは感概もあはるは
磨とてはるは今た佛者たとて見せし何者
色心はあはるは佛祖の流とてはるは

物とあそびたむは仕はしし官の榮暑チシといふと次極月チシ
 智チと物とあそびて塩チ野チ茶チたといふとさういふにさういふ
 仕へくいや農工商も貧チよりいとおろりて世れ中るめら
 中いたる農工商のこちるいあつ次士といふと色貧
 と常チりして孝同徳チと勵チ才徳達チといふ也出
 たりる榮耀チたる者へたはくへ不才不徳ありて國は
 乃用よめらうといふ唯士農工商のこちる次國天下は
 大は國都のまこととて色チ吉凶軍實嘉チ礼用といふ
 國上木早チの蓄チとほし君よはつますの役をたまたま
 富チ足チといふとくく次上へ天下のまこととて色チ末チと徳チ
 して性チと厚チ一天下の人民の生と怒ひ死よ是下チ
 順チたなりといふ且異國の不意よ備へ天運チの凶年飢

僅キンとわく可め得然して天下の財おのおほきも天下此の
 多めは清濁すきわをさすれりし其の上は天下の主
 志才一よ多しく只いめされハ賢才は人のまきたむ
 竟彙ウレイ之こそまじと憂し志然り是以同くたる聖人
 なきと色孔子ハ人の所なきハ志と明くは志して是達
 志然ひ竟彙ハ人代君をれは志然りて天下
 乃賢才とまじひと然り室ハ負ヒシよ生一知ハ謙ケンよ
 明くた然程と志して我知は自慢ビマしたまうこと
 天下の才知られらるるのたると空きとて
 謙退ケンタイたる色とておれ善政もおらり美風ビフウも後世り
 然るるのたると下例カゲンと知りて天下の志と不用時を
 おの事体ハ虚キヨ矣エイたるのた程よあつ次其恥よあつ

されどもして無心之ひ不善其名と得るをのみならず
れも天地の大なり万物と造化一かほ此をたて虚を
一物の理なりと同一の味とあらしむ身ハ必ち
又味なりして心鏡空とて万事に在るとあ
てみ音とあり心鏡空とて万事に在るとあ
おはれをより生一は人貧ハ世叟の福神といふ
俗語ハありよ人心の冥めてい

一 毒書略をうらハ竟森の民色貧乏と申すは

返書略をうらハあまこと色をうらハ

分と安して領カもれハ身カ勞カて心ハ楽カり竟森

乃民ハ康寧ハ福ありとハ此理とていむ一田又わ

ア毎日ハ白く礼祿一法福と給ふとて其妻

ありてさう極むるものなる一とほをたす事ハ義味
 あまきとを彼田史の靡然もきとさう、カク溜くアタカ暖かき故衣
 何事とも寒きといひおと賤のぬのこいとされつはおゆへ
 痛苦よめしは或ハ夭死ヨウシとよく口く頷ふるう了人々
 動物ならずと上天子より下士民よおますて、ゴ逸ユウとけは
 けこととれハ人のたつとじりキヨユウ詩由ハ賢人かり其身ハ
 農丈あつて彼よ同一堯の天下と穉志とく身と洗ひ
 一ハ其心のあの一ハ四海の富貴よあえたり徳たよの
 富貴ハ存ツクへたも云乃ニにニヤク天爵ハ百歳ヒヤク也又人いへるや
 わりナク禁チウ討チウを中国の主たもてし四海の尊位たり其富
 天地の同よあらびるカク顔カク子ハ每位カク官カクにカクてカクをカクあ
 きカク食カクるカクあえカクくカクかりカク志カクもカク三十カク飯カクめカクてカク天カク年カクのカクさカクり

わつと人生は福^コ是よりうけおふたなりと云ふ事と云ふに
人あらして樂^{カク}紂^{チウ}よ似たりといへば服立せりするはたと
天子たり富四海の内とたして己切れぬ徳の人よ似た
れと云て服立せらるるの一人と悪と和善と好むの良心
をまこしたるり又顔子に似たりといへば中心悦ぶといふ事
をくらむ事とて謙退と天子諸侯の富貴をくらしむ事
其言をよほりて人爵ハ其世にうりありてアチカキ桂
乃言のよかりて天爵ハとありてよほりてはよほりては
つと人爵よハ命分ありて頼よるるは次天爵よハ
分^フ數^{スウ}が心の位たよこふせくるものなり心のよのひ
ら奪^{ウバハ}ものなりよこへ人鬼た不安一昔人をく顔子
乃徳とありんことと紂よるる一樂紂の徳たありんことと

孫ふをりし決

一 来書略無欲乃しレ足るレ誰レ色レ存レ也レ家道心者
たしハ無欲をたたくらまレ世間よ交居してハレ欲
を戒るレ足るレめてい又者ハレ事レとなレ人のする
るレとせされハレ各番レといひレとレなりレ中レに仕レくハ
欲者レとレりレ多レくレ之レ色レにレとレくレハレとレくレ決レいレく
仕レるレとレくレ也レ

返書略も後無欲と何れ心得らまレ也天理ととめて
人欲レと人欲ととめて天理ととめてのあやかり有レと
と存レ也と蓄レてレ流レるレと欲レと蓄レつレて有
欲レと流レるレたレくレハ何レ度レもレと蓄レつレて有
欲レと流レるレ也其レとレと蓄レつレて有

スチニキ

又人のことなるもとせされしありをドとみるハ數奇者ト
 茶の湯ととくハ世謡と記よハうと云ハの舎と一馬
 とも記よハるありうハいとく傍軍の人と一なる人ハ
 路つてくハやさ極よ仕人ハ有まりハ善ふ内ハ
 愁^コたじとらよハ其隙の^ハ更ハ仍^ハ遊^ハ方^ハ振^ハとたるとして一
 憂^ハは^ハさ^ハら^ハじ^ハれ^ハて^ハハ今ハ極^ハよ^ハする^ハ人^ハも^ハあ^ハら^ハな^ハい^ハな^ハい^ハ
 い^ハあ^ハ我^ハ心^ハよ^ハ叶^ハひ^ハた^ハは^ハん^ハと^ハ立^ハて^ハん^ハら^ハよ^ハう^ハと^ハく
 性^ハ来^ハと^ハく^ハか^ハら^ハま^ハい^ハ其^ハ立^ハて^ハハ人の内^ハに^ハす^ハと^ハく^ハら^ハう^ハ
 としてありとるもしあり^ハ幾^ハち^ハカ^ハ鉄^ハ炮^ハ馬^ハ思^ハひ^ハく^ハよ^ハい^ハ振^ハと
 議^ハり^ハ茶^ハの^ハ湯^ハの^ハ酒^ハの^ハ連^ハ夜^ハケ^ハ文^ハ字^ハう^ハ人^ハあ^ハら^ハう^ハわ^ハれ^ハり^ハく^ハ
 一^ハと^ハい^ハハ^ハ極^ハと^ハの^ハ名^ハと^ハさ^ハし^ハも^ハ又^ハと^ハ奢^ハし^ハあ^ハら^ハし^ハと^ハん^ハハ
 大^ハ身^ハと^ハ大^ハ勢^ハを^ハ寄^ハ合^ハ小^ハ身^ハハ^ハ度^ハあ^ハら^ハな^ハく^ハは^ハら^ハな^ハい^ハ

カシを奉じて五人七人よるころは其中間の人各齋ころ
清白たりのころ名とはをとりてしをもしかならぬ世間の人
を同傳てりしよそいあうひよ一かましくよらいて一乞
ふりて衆といふるのたなくいさくは三緹^チ五常のたよ修
て其身代作法ふりて家内の男女とよくたふし今
馬軍^{クニヤ}役は應^{オウ}して毎^マあき知行の百姓とよしはけの
ら次は方不^フ次末長を立ふ様ありひちきりすく
ま^マふるのあくとま^マ文武の流^{リウ}よそく^クわ^ワ次世
間の者よひま^マ次親類系音相番のころとて交^{カウ}を
り^リ次屋代とかり^リ衣服とはくら^ラ次次た具と
ころが^ガ飲食と^シ次^シ費^{ハイ}とやめて有餘と存^ゾ
親類系音代おらめとすくい家人百姓とあはれ

登東文武の務ツトメは修イシメなく世に於てそのお我のひは心
のよしく忘わすれずあはれおほくたれ人あはれ世に於ては
正くあらし類たぐひとひくまらしなむある一用とせし節で
し不時の徳とせしを次とせしと多く之ね様なり仁は
色義めしあはれししてゆたかくはひ徳とせしを欲
とせしりんやれ本は名根とせし生して欲心のいひし
をいしあはれしあはれしのからし欲心おれぬよ人の各番
こいよるをよりとせし清白とせしとせしとるゆてし眞實を
欲の人よの清白とせしたるとおよてし眞實よを欲たを
くしんが各番たらしといつてよりの氣遣キツカイもたしくいぬよ
心を清く守る家屋の義とゆきされいとの清く儉約あり
衣服道具飲食のぬすもをきへ自然と將し無欲を

心乃儉約なりまは我も号を次人色とては次漢法の心
人といふことなり其處ハ無欲すは身代しはく
つて世る礼勢ツキメ色いづく有くまことまはく我も無欲を
まは身代しはく世る礼勢しりく威のまはく我も
陽の欲志ハまは陰の欲なり無欲とはく我も名礼の
欲之まはく大欲心まはく我も子の無欲とてはく我も
まはく私を記す也如法の正人ありハ今世とてを
あはくハハる愛したまはく我も得たる者ありてあり
ハとまはくありくまはく天乃と我心の沈没くとて
らはくハ法も遠國の人徳らまはく我も奇持たる
者あり我行む我名の身上に親類無音より我も
おハ下りまはく我も人公役軍役とてはく我も人馬とて

粥糲水の外をふ位は奇特なる親類之音のみりしり也
とく心おれ者ら感一トとわたりいふ

来書書略抄者せうき濟存交のまてくはきよてはるく
いれ世間の習よ入く氣隨我すいさく道徳とほま
次徳藝も根に不入りて父の罪とかり徳同志の罪と
いひ利はみり其身の行徳わくまあとの奢きとけいあ
不可用とていひけはくくいりや

逆書書略一朝一夕たなよあつ次はき最後の年すれ思養也
とていひていふ子息の衆よいれとていひて又とていひ
心根よ仁あつて幸ハ嚴なるりあくい人せハ水火の二り
あつていれ一自色あらしくい水火の仁ほと大なる事
たつといれ水火の嚴なるりたつとていひていひていひ

故よ心と火よ逆付て死せざるをんかたし水ハ柔なり物取
 ほく心やましく思ひ逆付て溺死せざるをんかたし水ハ柔なり物取
 の病ハ柔和過多死よして柔和過多あるハ人の信じら
 るものよしてふたれ極よして其門よ不孝子にして其國よ
 不忠臣にして其敵なりを親ハ無懼といひてしもし長
 き怨とさる物よしていさめくわいのたをせあるよしてし
 天のりし改められ極よふらふいし柔和なりを親とせ
 懼わらしてしもし色長しうう見中いふ程たさけ恩
 責なりてし其孝意をくみぬてをたたり其恩をく
 也よふいし親の柔和なり其子此ありいれ親を親の
 柔和なりハ家中の風俗ありふそのよい水の仁ハ母
 こころ大に仁を父のまこと其後ハ母に別して其子

息おれ成程いひ今にむくもせしむせしむといふ
いふく戻て^{モトリ}よむおとくおまのいふ國家并改たを致て
色も居ぬおとくたれお行の下めは眾人おひかて人
多く死むと致そのよし又君子たまはいつ福業和して
色子もはれしと致おは神氏の徳おりしは次おや
水も大園の青もつりて庭もささるめはとれ事そは
とりに立かてくやうりたたまは天よ威おはるゆいひま
後今よりと火の仁ら成まはれいりおれ仁おとくよく
徳も後程よるくいひ

一 来書略雷^{カミナリ}ハ何事ハおらひく人色計いして誰^{タレ}をたせ
るくハをとぬいひく

返書略雷^{ライ}がとれおる者ハ悪^{アク}氣^キと悪^{アク}とたかりき

度悪人あり次して悪人の位とぬ給ふやハ海といわれ
 故よ雷が六物の留滞リウチと通じらるお方りなは雷とすそ
 ち氣血キチツ流行リウコウと相當の灸と一茶と服丹志了シヤウなり
 き心地うたそのよいさるお方りなはよめりさるお
 とい也たとくハ盜賊トウソクいましめれぬあよまをわたりとがし過着
 とわりきいさるハ常人のためよハ收りてい志るよ盜賊と
 其いさしめと因てら肝とをいさしめく平生心よ悪ある
 ちよ雷がとすてたせうくよそい

一 來書略聖人よ及なりと申し一考孔聖周公と及
 らぬの語あり兩楹ニイの間よぬニウラるるの及あり
 返書略ぬ世俗よはとて及といなり是及よわ
 と聖人の心よは正思あり前云あり周云と及尺給

ふ、華井正思たり、西櫓の間よあり、なり、ハ東の南窓
今日吾人といふ、聖人は同一に在り、若たしとて、あり、
士、母娘のハ、常の産た、も、生、世、常、此、ん、あり、と、盗、と、せ
う、此の心、ち、死、よ、と、る、ま、く、妻、せ、此、字、同、せ、と、色、と、色
幼、う、ら、と、其、義、と、精、く、智、来、た、る、故、之、志、う、此、ゆ、り、
盗、と、志、う、り、と、い、ふ、後、を、終、よ、死、と、あ、の、ハ、聖、人、と、同
一、同、思、色、た、く、若、も、色、か、一、致、を、此、志、る、一、也、昔、う、り、
也、と、櫓、と、の、功、た、り、ち、と、此、盗、と、し、て、い、あ、る、事、入、り、
と、恐、ま、て、せ、ら、る、と、ら、し、り、あ、て、死、の、心、ハ、も、者、を、付
あ、り、此、欲、と、る、念、也、色、も、あり、一、と、志、う、つ、と、若、も、色、盗、と
志、く、ち、ら、と、た、と、又、さ、う、心、事、も、我、か、と、わ、れ、若、も、死
致、を、一、常、に、志、ら、ぬ、り、と、し、若、も、ハ、死、致、た、事、と、色

大なる其類は觸たるるものと凡るる車に乘りて氣充と
通たること云々凡るるを以て成るとなり

一 来々々々人の身は心中にあるは血は水中にあるは血は
心よりけ身を生き又身は血と成ると云々凡るるの車は
けく其者其車と成ての如きと云々凡るるの天地
乃中にあはるる人の腹中に心はあはるるものと作ら
し心は心外なり腹中ま有と一偏は云々凡るるの
返書略天地人と成りて又人と成ると云々凡るるの
此の理も凡るる人の性命なりと人性なりと云々
天地と成り大なりと云々凡るるの天地の徳神明の
命と云々凡るる心の腹は虚中との如きと云々又
腹中にあはると云々凡るる善ありと云々凡るるの

日月さめくど死後つてて寝^{イ子}は何のん色たかく作
生死を終身の晝夜めくど吾輩は今日れ生死
あつくい生死の理も吾輩を只まじく常は明ふ
いつて終終とくし吾別候い薪はきく火滅^シとる
くましく寝^子あよ入く心ゆく寝い^ク如く何の思^シ念^ニを
かくは明白なれ世とるしにい^シ

一 吾輩略吾輩れ道は通して念やびつて生涯^{シヤウカイ}の心か

もきま^シ鬼神の境^{キヤク}界と可成い也

返書略生て五倫れ道あり者ハ死て五行は配^イと中

死を^シい^シあ^シつ^シは明^{メイ}はハ五倫ありし^{ユウ}ハ五行あり

明色^{メイ}造物者^{ガウブツシヤ}と交ありし^シ造^{ゾウ}造物者^{ゾウブツシヤ}と交あり生

はく心ありし死^シはく心あり^シ人の字^シは心とは^シを^シは

明白なりきやい

一 宋書昭大舜シユニの故事との後よきと孟子モウジ書より
異たれいりきとぬりや

返書昭孟子ゴロイの語勢と云ぬはこれ故よして孟子の

語勢ハ本の虚実キヨジツと云はれきめと云はれ道理や

得たう、道德と発明と云ぬはこれ故よして孟子の

素ソの時代たきとて天子の二女と云うト一ト姫ヒメ日ヒよと云

いしよと云ぬはこれ故よして孟子の二女と云うト一ト姫ヒメ日ヒよと云

我といしよと云ぬはこれ故よして孟子の二女と云うト一ト姫ヒメ日ヒよと云

といしよと云ぬはこれ故よして孟子の二女と云うト一ト姫ヒメ日ヒよと云

より若ぬはありとてき如此と云ぬはこれ故よして孟子の二女と云うト一ト姫ヒメ日ヒよと云

からと不ズ者ツケして要ナの偏ハ若後世不心得たう歎

あらうとて若く同心と母しと者あはる子孫相續を
 孝成第一たる事ハ不孝として要つて色くけりか
 若の礼と不周とといふ小節なり子孫と付きくの大偏
 と立派の大義なりハ介り章の中心なり性敬の父
 母はけ久遠を以て性命也又母はけ之にけりとい
 孟子よありて明かりなり賢賤の中心ハ若てからん
 賢の中心なり天子は命たる事ハ忌疾たる事とい
 らせり疾を以てあそわくといふ忌疾たる事より
 有せざることといひさうせて同心たる事と志する事
 此も衆のたぬ心よ心ようとされし一向初めらるし不法
 て取らるしと詔あつしを以てたる事ハ大衆ハ此の處
 慮とつてと竊ハ告げらるる事ありて

一 東書略大王ハ仁人なりと云るに貨タカラと好むと云ふと云
し之ハ如何

運書略是色事其諸勢たり國よ三年ハ甚な

事ハ六國其必よあり次て後世ハ人の已りたれよ貨

と云へりる取ハちりて國人のたれよ積至るいり

とてハ一國の一年の差入を四よ分て三を以て万平

と達し一と拘り兵事水旱スイカンハ用よ備ハ天道の四

時冬一河と不用志と貯タクハとたかりつと三年後

て一年の餘あり九年後て三年の餘ありとモミ起りて

とと干飯ありと云ふとありと云ふハ候よ入之

おと仕ハ如何なりと異國イコクの兵乱ヒヤウランありと云ふハ國

よして危ふことなり水旱ハ運よまきと云ふと云

こなるは盗賊おつるは國人のためは貨を好むと云
 うはたぬめは好むあつるは後世は貯蓄と云ふは
 乃たたぬめくつたもは多くとては飢饉の用は
 大明の饑餓と云ふれは國は三年の蓄あつる
 故飢饉よきとて盗賊おつるは事と云ふやとて兵亂
 成てはぬよと云ふ事あり國は三年は蓄たもは國其
 必よあつるは至言明かり又大王の名を好むは
 婚嫁の礼を明かにし奉物を授けて男女討と不
 失三十の男はあつるは婦を討て二十は女はあつるは
 王多と好むと云ふは王道よと云ふを重きと云ふは
 今

まじりなきなりとたかり

一 来書書略孝子の日月と愛とこれの道理義友い

逆書書略孝子の父母の命と愛と此よりなるなりといふ父母

己と身并一まじりし時ハ命の一時と身並一し時ハ此と

心今日昨日ハ天命ならず天地ハ大父母なりし君子ハ父母

天地を子とすなくい天道既^ス今日昨日と命と或ハ

勅勞せしめ或ハ起樂せしむたす日と志と愛と此と

りよりある人ハ貧賤なる時ハ憂者一富貴なる時

と逸樂に在る日と空して愛と此よりと不^レ忘^ル目前

乃利と心とて千載^セの功と日と此より君子ハ貧賤なる

時と勸学の一富貴なる時ハ人と愛に日月上よ替て

形体下よ衰一忽^{コソ}終^ハして万物と遷^ル他と^キ不^レ廢^ル決

徳くして寸陰を重むる者乎そよけよ及てうむじ
とて怨まらざらん

一 来書略天下ととれしとれを信諾していや國中
くの有とてふかめやうよいぬ何

以て書略徳と以て天下と念と有とひ力と以て天下

よ主ぬれと取とりて王代ハ有らむ家ハ取めて有
るくい志とて兵書よ云て取於民者取民者也

無取於國者取國者也無取於天下者取天下者

也無取民者民利之無取國者國利之無取天下

者天下利之とり出の意よていり取の字もくる

一 かの

一 来書略言えよけりしと礼とて是れ世よ志

有之い今心得て誰も礼不仕い言葉とるよとてか
取つ彼さこそく笑てさいおやうけをよみ必何下位也
返書暗教なく礼式かともあよさ様の人何方よまた
ほくい介者八拜せ決て軍中よて申曹志くは
拜せざる礼とはい古者國容不入軍軍容不入國
軍容入國則民德廢とい疾いさ礼の無礼人と拜せ
決言をたるととてりもてさふうくせよたうとて常け
くよさたうひよ其通よ成い志うきと國の礼儀とて
まいて人の徳とてまい治國よ礼儀とてまいて
軍令よ高以行いまいて亡國の基よてい是故よ治
國ハ教て礼儀あることとさうひいたうと
来書暗鬼門令神(屋とてり)をうつるよとて取る哉

忌いゝの八道理ありしころの儀も是くい世間を憂
 以んを有之い其主人壽子^{サシ}をたにたさうとたはも多
 くいありしを方ありし家内を強たはたさよ家^カの事
 ぶどころめい鬼色心ある様は山^{ヤマ}たはは理分明あり
 すと作

逆書書略日本八福地なるを。田畠多く人多く山澤
 事^{コト}に應^{オウ}しわくしんく欲するまに危作一本成
 ころは山林ほどありあそて人民^{タミ}あうくいんけ
 故よありし神道の法として三年^{サンニシ}悔さうと令神鬼
 門と忌事^{イミコト}を身^ミにけ分^カけ堪^{カン}也^ニとてし日本國の山林と
 精^{シヨウ}育^{イク}一^{イツ}家財^{カザイ}と存^{ゾン}ふ^フん^ン事^{コト}大^{ダイ}た^タら^ラとび^ビり^リの
 いまさらしころを法^{ホウ}交^{カウ}も^モ日^{ニチ}て^テ後^{ノチ}の^ノ事^{コト}と忌^{イミ}たり

法とちうけら不義なるをいふまじと罰せしむるあたなり
いふ人や日本の水去よりよして立ちまじとて神道乃
法なりとていふやうしてを神罰有るくは神道の本に
義理なりとて義理有てはく。一やうくもくに致
しとていふやうせくをいふへいといはくは國よきまじあり
吾國の神道とて或ハ年来悪心悪行なりと有る
神罰いふるべき時言ふ令神鬼門の方とありて災
害よきをも有るくは年来不屈の者たまはし不道よ
うとして罪は行つて生る道なきも有るくは人の罪
とていふ悪くも罰せされし鬼とていふと罰する者あり
と古くもいふ

一 法とちうけら

通書略

一 月は向かひは向とれ義理言語を以てしとせしむるに
 多く心術のよきよしよしよしては月は向ひぬれば師友や
 其の同仕はいつて吾志を決心御心に向ひぬれば向ひた
 親孝者を師友とすしは志を美として心術不
 外は向ひぬ是を以て心傳心とて可申し書にじふ義
 倫徳明の時からり方を極よは世國家のる五倫
 の交は世俗のまうりては名ひぬを又用は立明くし
 認よかりて用ひぬておと方ひおむぬ是とれ
 外に向ひぬればなりてい
 一 一書りたは此ふ事ハ義理してはて若成する
 一 一とてい書と刃るものこそ同くしてはるめとくハ

たらしむ人などいふ人を見しめて此人を元来如此と思ひて
とうめをなくし一休の事宛同しと親ととて人下たる
て五條丸よむの事いふく天下一我も同くさく人のこと
らし一家も立明らるるべく同しわらぬ人寄合て
あふ半調い不相叶はれ我よまきりる處なり却て
好むるくい

一 存養有案ハ同一工夫一といふ存養ハ静中ハ有案
有案ハ動中ハ存養よいこそし慎獨覺受用たる
天理の真樂其中に在り

一 我死体も親の遺体たるハ遺言とてくも海くおせさ
れ道理との本を類とてい義けりしきにありて
さねも色空のい下も少穿礙よはるるく

色いた塵天池先祖父母己子孫生附絡一貫して
し子孫とくも先祖の遺体なまてしこら私のみよ
わし次い生附はてて死体とあらしむれ時ち土よ合
とるとか本理とくくの上古れんち本理よまうせい
後半のんち情よまうとて死体とあらめい又そのま
おも死体とあらしむれ己う情とはくことよてい己身
よとくハ認よのれ者ハ情と付廣ハ勢よまうせい
いづく遺言よ不及事よい又遺言せ次くて不叶
ゆり色有るくい

一 来書略古今鬼神有無ハ認よまうと明くくい
返書略聖人神明不測との認ひい明白なる道理
よていとくも不測の理よ違せされくもや思者け

Author: [熊澤著山] (Kumazawa, Banzan, 1619-1691)

Title: 集義和書 (Shūgi washo; Letters and Essays on religions and other subjects)

Place: n.p.

Publisher: 帝都書肆 (Teito Shoshi)

Date: n.d.

5v. (double leaves)

Text in Japanese

LIBRARY OF HARVARD
MAR 15 1966
THE UNIVERSITY OF CHICAGO

SCD
2413
v.1

天
好
也

山

1966
115

PL803
K96
Y1